

三

嘉慶拾三年より拾四年迄

御三代伊江親方日々記

嫡孫蒲戸勤方ニ付諸事日記

嘉慶十三年戊辰

正月申

一 元日軍勢殿内御靈前江雲餅糕三箱差上、

御燒香仕候事、

一 二日、左之人數色衣冠酒代持參三而、年頭之祝儀

被罷出、順候事、

次男嵩原里之子親雲上・父天願里之子親雲上・次男浦崎

筑登之親雲上・金城筑登之親雲上・詰合供之者共

右人數年頭之礼請候處、得与相考候へ者、亡母様

御為二八私月忌八去臘迄相濟申候へ共、実者

咸豐拾壹年辛酉十月写

本書落冊虫入
切麿等八除

嘉慶拾三年よ里拾四年迄辰巳

御三代伊江親方日々記共七冊

川平殿内

年七月賀礼是法家ノ如例申向
 事終ニ後法家ノ如例申向
 八表立之國法ニ私情ヲ以相止候儀ハ
 不罷成、賀礼身ニ請申事ハ自分情合
 次第取行候而も不苦等ニ而、方々年頭之祝儀
 相断候事、
 一三日、北条織部殿ノ年頭之御祝儀御使を以被
 仰下、御口上書左三記、
 口上
 弥御堅固被成御趣、歳目出度存申候、年頭之
 御祝儀以使可申入如此御座候、以上
 正月三日
 北条織部
 一四日、右御礼年頭之御祝儀崎山里之子親雲上を以申上候、
 口上書左三記
 口上
 弥御勇健被成御趣、歳目出度御儀奉存候、
 昨日八年頭之御祝儀以御使被仰下候、御口上書之趣、
 承知仕、忝次第奉存候、右御祝儀御礼旁

一
 一、北条織部殿ノ年頭之御祝儀御使を以被
 仰下、御口上書左三記
 口上
 弥御堅固被成御趣、歳目出度存申候、年頭之
 御祝儀以使可申入如此御座候、以上
 正月三日
 北条織部
 一四日、右御礼年頭之御祝儀崎山里之子親雲上を以申上候、
 口上書左三記
 口上
 弥御勇健被成御趣、歳目出度御儀奉存候、
 昨日八年頭之御祝儀以御使被仰下候、御口上書之趣、
 承知仕、忝次第奉存候、右御祝儀御礼旁

原親方

伊江親方

一、本番親方、正月四日、御見廻御出被成候付、左之通御馳走仕候事、

一、千餅御菓子・御茶上候事、

一、一盃・肴立・御吸物三ツ上、御取替仕候事、

一、八日、里主伊舍堂親雲上被罷出被仰聞候者、去臘廿日比御奉行北条織部殿を被仰下候者、義村王子、

喜屋武親方・私江ハ、此跡御詰之時御丁嚙御取合被成、格別ニ被思召候間、いつす御見廻被成度被思召候、

乍然御隠居之事候へハ、直ニ御見廻被成候も如何敷候間、里主ニ而内々相伺申上度由被仰下候、

義村御殿江ハ、当時按司御病氣ニ付御取込之由、喜屋武殿内江ハ、当分御忌中ニ而いまた不申

上候、私江ハ何様相考候哉与被申候付、私申上候者、私江ハ在番之時御近付ニ相成、此跡御詰之時も御丁嚙被仰下、且去々年冬至ニ此方江御出被成候時も、御逢被成度被仰下候処、不快ニ而不懸御目

候也、

御目

候也、

御目

候也、

御目

候也、

御目

候也、

乍憚以使申上候、以上

前 伊江親方

正月四日、御見廻御出被成候付、左之通御馳走仕候事、

一千餅御菓子・御茶上候事、

一盃・肴立・御吸物三ツ上、御取替仕候事、

八日、里主伊舍堂親雲上被罷出被仰聞候者、去臘廿日比御奉行北条織部殿を被仰下候者、義村王子、

喜屋武親方・私江ハ、此跡御詰之時御丁嚙御取合被成、格別ニ被思召候間、いつす御見廻被成度被思召候、

乍然御隠居之事候へハ、直ニ御見廻被成候も如何敷候間、里主ニ而内々相伺申上度由被仰下候、

義村御殿江ハ、当時按司御病氣ニ付御取込之由、喜屋武殿内江ハ、当分御忌中ニ而いまた不申

上候、私江ハ何様相考候哉与被申候付、私申上候者、私江ハ在番之時御近付ニ相成、此跡御詰之時も御丁嚙被仰下、且去々年冬至ニ此方江御出被成候時も、御逢被成度被仰下候処、不快ニ而不懸御目

候也、

御目

候也、

御目

候也、

御目

候也、

御目

候也、

御目

今更残念ニ奉存候処、右通厚思召を以被仰下
事候へ者、御断申上候而ハ別而如何敷存申候、乍然
隠居之事情へ者、悴を以御座得御差図何分御
方迄申入答之由、相違候事、

一 隠居之事ニ而、本宅ニ而ハいたしかたく儀共有之
候ハ、下やしきなどニ而も御逢被成度被思召由、

一 御出被成候ハ、誰も御列不被成御一人御出被成
御考之由、

御考之由

一 八日、高原親方年頭始而御出被成候付、去六日
与那原親方御出之時同前、御馳走仕候事、

一 十日、前文之通御奉行方御見廻被下度思召之由、
里主方承知仕候趣有之、何様仕可然哉、隠居
之事候へ者、此方考迄ニ而ハ相決かたく、悴親方を以
御座得御差図候処、適厚思召を以被仰下事
候間、御断申上候而ハ如何敷、乍然隠居之事情間、
悴親方方招請仕、内々懸御目候筋仕候ハ、御
方江も差障不申、尤翌日御礼も親方罷下
申上、御都合彼是可宜候間、其通取計可然与

一 十一日、前文之通御奉行方御見廻被下度思召之由、
里主方承知仕候趣有之、何様仕可然哉、隠居
之事候へ者、此方考迄ニ而ハ相決かたく、悴親方を以
御座得御差図候処、適厚思召を以被仰下事
候間、御断申上候而ハ如何敷、乍然隠居之事情間、
悴親方方招請仕、内々懸御目候筋仕候ハ、御
方江も差障不申、尤翌日御礼も親方罷下
申上、御都合彼是可宜候間、其通取計可然与

一 十二日、前文之通御奉行方御見廻被下度思召之由、
里主方承知仕候趣有之、何様仕可然哉、隠居
之事候へ者、此方考迄ニ而ハ相決かたく、悴親方を以
御座得御差図候処、適厚思召を以被仰下事
候間、御断申上候而ハ如何敷、乍然隠居之事情間、
悴親方方招請仕、内々懸御目候筋仕候ハ、御
方江も差障不申、尤翌日御礼も親方罷下
申上、御都合彼是可宜候間、其通取計可然与

一 十三日、前文之通御奉行方御見廻被下度思召之由、
里主方承知仕候趣有之、何様仕可然哉、隠居
之事候へ者、此方考迄ニ而ハ相決かたく、悴親方を以
御座得御差図候処、適厚思召を以被仰下事
候間、御断申上候而ハ如何敷、乍然隠居之事情間、
悴親方方招請仕、内々懸御目候筋仕候ハ、御
方江も差障不申、尤翌日御礼も親方罷下
申上、御都合彼是可宜候間、其通取計可然与

一 十四日、前文之通御奉行方御見廻被下度思召之由、
里主方承知仕候趣有之、何様仕可然哉、隠居
之事候へ者、此方考迄ニ而ハ相決かたく、悴親方を以
御座得御差図候処、適厚思召を以被仰下事
候間、御断申上候而ハ如何敷、乍然隠居之事情間、
悴親方方招請仕、内々懸御目候筋仕候ハ、御
方江も差障不申、尤翌日御礼も親方罷下
申上、御都合彼是可宜候間、其通取計可然与

今更残念ニ奉存候処、右通厚思召を以被仰下
事候へ者、御断申上候而ハ別而如何敷存申候、乍然
隠居之事情へ者、悴を以御座得御差図何分御
方迄申入答之由、相違候事、
一 隠居之事ニ而、本宅ニ而ハいたしかたく儀共有之
候ハ、下やしきなどニ而も御逢被成度被思召由、
一 御出被成候ハ、誰も御列不被成御一人御出被成
御考之由、
一 八日、高原親方年頭始而御出被成候付、去六日
与那原親方御出之時同前、御馳走仕候事、
一 十日、前文之通御奉行方御見廻被下度思召之由、
里主方承知仕候趣有之、何様仕可然哉、隠居
之事候へ者、此方考迄ニ而ハ相決かたく、悴親方を以
御座得御差図候処、適厚思召を以被仰下事
候間、御断申上候而ハ如何敷、乍然隠居之事情間、
悴親方方招請仕、内々懸御目候筋仕候ハ、御
方江も差障不申、尤翌日御礼も親方罷下
申上、御都合彼是可宜候間、其通取計可然与

御下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

一 十一日右方終局親方里主所江罷下、伊舍堂親方より被仰下候由

被仰下候由、

一 十二日、右相談之為親方里主所江罷下、伊舍堂親雲上江相談之次第左三記、

一 御座方御差図之通、親方より招請仕候筋愈御都合宜由、

一 御用達衆御列被成候様御挨拶申上候而ハ、却而思召三不相叶由、

一 御相伴も此方相談之通、宜寿次親方・伊舍堂親雲上三而被相勤可然由、

但、伊舍堂も相頼候処、弥請合之由、一 招請之日柄ハ、来月十日比可然由、

一 十四日、伊舍堂親雲上被罷出被申聞候者、御飯屋参上御奉行江相談之趣申上候処、

別而御仕合之由被仰下候由、一 御日柄之儀者、来月十日比伊江親方罷下奉伺筈之由、申上候由、

一 御饗応方之儀ハ諸事化略仕候様、御奉行方御挨拶之趣有之、三司官衆

夜御咄之時も本膳五ツ組御手引卷ツ之御馳走ニ而候得者、此方江者此節始而之事情間、

御二式ヲ組差上候而相応仕筈之由、相談仕置

候事、

二月申

一 七日御直奉以奉と候屋守富永親雲上呼出

あ後と申九十月十七日、御直奉下候様

奉伺候処、十四日二御出被成候由、御返詞被下候様

一 御相伴之儀御尋御座候付、宜寿次親方・伊舍堂

親雲上相頼申答候由、申上候事、

一 伊舍堂者罷登居候付、当日御客屋江罷出

御案内仕候様可相達由、御奉行様御沙汰

有之由、富永方為承由、

一 当御物城安本親雲上御案内相勤候而、

伊舍堂者御客屋江罷出二及間敷哉、

相談之事、

一 八日、御奉行昨日之為御礼御手紙左記、

弥無御障御勤珍重存申候、昨日者御見廻、

来十四日御宅江御咄二罷出候様承忝存申候、

御面上御礼可申述候へ共、先其内乍序如此

御座候、以上

二月八日

北条織部

伊江親方様

七日御國船来着、御奉行北条織部殿御宿元

御吉右衛門到来之段致承知、翌八日天願里之子親雲上
差遣御祝儀申上候、口上書左記

口上

弥御勇健被成御勤務、珍重御儀奉存候、
御国船来着御宿元御吉左右之段承知仕、
目出度御儀奉存候、乍憚以使申上候、以上

二月八日

前
伊江親方

九月、右為御礼御口上書左記

口上

弥御堅固珍重存申候、然者御国船来着有之、
宿元吉左右之段承候為御祝詞、昨日者
被示聞趣忝存申候、右御礼可申入如此御座候、
以上

二月九日

北条織部

二月九日

小原御前

十二日、名登山筑登之親雲上御飯屋江差遣、御飯屋守
富永親雲上御取次申上候者、両親方被申上候、
御奉行様弥無御障御勇健被成御座、珍重
御儀奉存候、然者来ル十四日二者兼而御約束申上置
候通、弥八ツ後御来駕可被下由申上候付、被入念儀
被思召候、弥十四日二者御出被成候由、御返詞御座
候事、

十四日、御客屋御着被成候段申来候付、御用意方

勝連里之子親雲上を以御注進申上候付七ツ頭時分
御出被成諸事御次第書通相濟候事

一 御相伴宜寿次親方・伊舍堂親雲上・御物城
安元親雲上、御見廻兼ケ段親雲上、勝手見廻
諸事肝煎懸而垣花親雲上・次男高本
里之子親雲上・知花里之子親雲上

一 於本座御吸物御三献差上、私・親方御取替
仕候事、

一 庭御見物直ニ後之座ニ御通被成候付、御持せ披
御吸物五計差上、御料理御本膳四ツ組
御二式ツ組・御盛合菓子一ツ・間之御吸物・
御取肴等、膳部之通差上候事、

一 泊村新崎筑登之親雲上・新崎筑登之・無系知念
筑登之親雲上相頼、琴うた三味せんニ而御座興相勤
候事、

一 識名里之子親雲上罷出、席書懸御目候事、
一 御機嫌宜御緩々被成御座、夜之五ツ過時分
御帰被成候事、

一 十五日、親方罷下御礼申上候口上書左記、
口上

御奉行様弥御勇健被成御勤務、珍重御儀
奉存候、昨日者御来駕被下殊更御覚書之通

御出被成諸事御次第書通相濟候事

勝連里之子親雲上を以御注進申上候付七ツ頭時分
御出被成諸事御次第書通相濟候事
一 御相伴宜寿次親方・伊舍堂親雲上・御物城
安元親雲上、御見廻兼ケ段親雲上、勝手見廻
諸事肝煎懸而垣花親雲上・次男高本
里之子親雲上・知花里之子親雲上
一 於本座御吸物御三献差上、私・親方御取替
仕候事、
一 庭御見物直ニ後之座ニ御通被成候付、御持せ披
御吸物五計差上、御料理御本膳四ツ組
御二式ツ組・御盛合菓子一ツ・間之御吸物・
御取肴等、膳部之通差上候事、
一 泊村新崎筑登之親雲上・新崎筑登之・無系知念
筑登之親雲上相頼、琴うた三味せんニ而御座興相勤
候事、
一 識名里之子親雲上罷出、席書懸御目候事、
一 御機嫌宜御緩々被成御座、夜之五ツ過時分
御帰被成候事、
一 十五日、親方罷下御礼申上候口上書左記、
口上
御奉行様弥御勇健被成御勤務、珍重御儀
奉存候、昨日者御来駕被下殊更御覚書之通

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、且又
召列之者迄御馳走給候由、彼是入御念儀存申候、
右旁之御礼乍早々以手紙可申入如此御座候、以上
二月十五日
前
伊江親方様
北条織部

伊江親方

同日、御手紙を以私親方江御礼被仰下、孫四人江
品々被下候御手紙左記、

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、且又
召列之者迄御馳走給候由、彼是入御念儀存申候、
右旁之御礼乍早々以手紙可申入如此御座候、以上
二月十五日
前
伊江親方様
北条織部

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、其上
召列之者迄も御馳走給候由、入御念儀存申候、
右旁御礼以手紙可申入如此御座候、且御子共之
衆江扇子四箱・にしき絵・楊木差一包并粟
一重之内不取散、任有合致進覽之候、以上

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、其上
召列之者迄も御馳走給候由、入御念儀存申候、
右旁御礼以手紙可申入如此御座候、且御子共之
衆江扇子四箱・にしき絵・楊木差一包并粟
一重之内不取散、任有合致進覽之候、以上

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、其上
召列之者迄も御馳走給候由、入御念儀存申候、
右旁御礼以手紙可申入如此御座候、且御子共之
衆江扇子四箱・にしき絵・楊木差一包并粟
一重之内不取散、任有合致進覽之候、以上

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、其上
召列之者迄も御馳走給候由、入御念儀存申候、
右旁御礼以手紙可申入如此御座候、且御子共之
衆江扇子四箱・にしき絵・楊木差一包并粟
一重之内不取散、任有合致進覽之候、以上

昨日者罷出段々預御馳走、殊更目錄之通
被懸御意忝存申候、任御取持甚及長座、
大醉御大屈も為有之筈与今更存申候、其上
召列之者迄も御馳走給候由、入御念儀存申候、
右旁御礼以手紙可申入如此御座候、且御子共之
衆江扇子四箱・にしき絵・楊木差一包并粟
一重之内不取散、任有合致進覽之候、以上

小原織部

二月十五日

伊江親方様
御堅固御勤珍重存申候、然者昨日者
御奉行様御手翰を以被仰下趣、殊ニ子共江
珍敷御品々被下置之、誠以御懇情之御儀
忝次第奉存候、いづれも頂戴別而喜悅仕事
御座候、早々参上御礼可申上之処、差合之儀共
有之其儀難叶申候、近日中参上御礼
可申上候得共、其内之儀何分ニも宜様御取計給度、
此旨御頼申入候、以上

伊江親方

二月十六日

富永親雲上様

廿一日、前川親雲上、喜名親方・前川里之子親雲上帰帆前ニ
罷成候付、上下やしき中不残相招候付、
最前ハ上之松原ニ罷出相慰、夫々前川宅江
罷出段々馳走共相済、観音堂江罷越夜之九ツ時分
罷帰候事、

一上之松原ニ而茶請・メ物色々・あんきんへん二重、前川
差出候事、

但、座構・茶湯ハ此方々相調候事、

一於前川宅ニ手引一之休馳走有之候事、

但、吸物一ツ・硯ふた・焼酎共出、休ハ汁細とうふ皿

湯なます手引みそ煮ふた、多人数入念
たる馳走ニ而候、

- 一 一ツも二而まんてう三百ツ、持参、前川江進候事、
- 一 晩者銘々米めし・メ物、観音堂江取寄候事、
- 一 慈眼院各諸道具あふら等借相渡、其外段々
- 一 肝煎有之候付、まんてう一重もたせ進候事、

三月中

朔日付役元書紙介月也

- 一 二月十八日山川出帆大島江汐懸今日入津、
- 一 喜名・前川書状到来無之、十八日迄ハ山川
- 一 廻船無之由、

四日、大和船来着、翌五日喜名・前川御書状
到来、いづれも大慶安堵仕候事、

八日、吉日ニ而去丑七月私夫婦・悴親方・孫かま戸
厄年ニ付而立願仕置候付、右結願又者当年

室并親方・宜寿次龜厄年之由、善興寺占を以
被申聞候付、別紙願書之通立願いたし、銘々
みはな頂せ候事、

一 御願所者、前川親雲上妻罷通奉願候事、
但、かま戸・次郎も罷通候事、

同日、孫樽さら立相祝候事、

一 右両様祝儀ニ付、上下やしき中前川親雲上

富盛祖母・勝連按司をなちやら罷出候事、
 一 日間、樽祝ニ付例之通料理さうめん、晩者手引
 一 ツ之休め、出合之人數江者馳走いたし候事、
 一 十五日、大和船来着、喜名親方・前川里之子親雲上書状
 到来、相列候面々迄も無別条段相見得、いづれも大慶
 不斜候、
 一 大和船四艘来着、其内一艘御奉行御乗船、
 一 喜名相列罷登候亀浜し、病氣ニ付先達而
 帰帆いたしたる由ニ而、夜入候而罷出候付、喜名・前川
 様子も委細相尋承、別而安堵仕候、
 一 十六日、例之通清明参り相濟候事、
 一 伊江按司も、宮平里之子親雲上御使を以被仰聞候者、
 清明参之時例年ハ識名御墓・末吉御墓・
 石嶺御墓所御焼香相濟、此方又ハ宜寿次
 御墓御焼香相濟、御殿御下やしきニ相揃、
 御さんたい頂候先例候処、此節ハ御殿江茂
 御奉行御招請前、此方江も喜名親方帰帆前ニ而、
 御互々ニ取込申折ニ而候間、今度ハ御殿御下屋敷
 相揃候儀ハ無用いたし、銘々御焼香相濟次第
 罷歸候様仕候而ハ何様候哉、宮平里之子親雲上御使を以
 被仰聞候間、御尤之儀如何ニも御同意之由
 御返答いたし、其通いたし候事、

富盛祖母・勝連按司をなちやら罷出候事、
 一 日間、樽祝ニ付例之通料理さうめん、晩者手引
 一 ツ之休め、出合之人數江者馳走いたし候事、
 一 十五日、大和船来着、喜名親方・前川里之子親雲上書状
 到来、相列候面々迄も無別条段相見得、いづれも大慶
 不斜候、
 一 大和船四艘来着、其内一艘御奉行御乗船、
 一 喜名相列罷登候亀浜し、病氣ニ付先達而
 帰帆いたしたる由ニ而、夜入候而罷出候付、喜名・前川
 様子も委細相尋承、別而安堵仕候、
 一 十六日、例之通清明参り相濟候事、
 一 伊江按司も、宮平里之子親雲上御使を以被仰聞候者、
 清明参之時例年ハ識名御墓・末吉御墓・
 石嶺御墓所御焼香相濟、此方又ハ宜寿次
 御墓御焼香相濟、御殿御下やしきニ相揃、
 御さんたい頂候先例候処、此節ハ御殿江茂
 御奉行御招請前、此方江も喜名親方帰帆前ニ而、
 御互々ニ取込申折ニ而候間、今度ハ御殿御下屋敷
 相揃候儀ハ無用いたし、銘々御焼香相濟次第
 罷歸候様仕候而ハ何様候哉、宮平里之子親雲上御使を以
 被仰聞候間、御尤之儀如何ニも御同意之由
 御返答いたし、其通いたし候事、

一 女日私事法在以後、二十二月清明祭、是日
 言ひし墓所ハ悴名代を以御焼香仕候処、去年ハ
 云母御所之卒、因之新敷止候下、由目次
 法差以上事と語死法、是日御所子等之御焼
 仕候由、是日御所卒、御焼香仕候下、御焼香
 仕候事

一 適宜奉次御墓所江罷出候付、此方御墓所も
 活花・御茶湯差上、御焼香仕候事、

一 御菓子、去年之通かすていら一重差上
 候事、

一 御さんたい之御菓子、戻り懸内間見廻いたし
 候付、同所江五かけ、瀬底江四かけ進、餘者宜奉次江
 差遣候事、

一 孫次ら相列罷越候事、

一 昼めしハ八寸二重二めし・ノ物相調、瀬底ニ而
 給、瀬底家内其外末々江少々ツ、くり候事、

一 廿二日、御奉行北条織部殿御安否御尋として、
 きんそかう一重口上書取添、瀬底里之子使を以
 差上候事、

但、堆錦八寸五分重箱ニ入、上ニ紙おそへ朱かミ
 押、きんそかう与銘書いたし候、

口上
 押、きんそかう与銘書いたし候、

一 廿日、私事隠居以後ハ一門中一同清明參不仕、
 方々御墓所ハ悴名代を以御焼香仕候処、去年ハ
 亡母様御三年内ニ而難黙止、私一分ニ而宜奉次
 御墓所江參上、活花・御茶湯・御菓子差上、御焼香
 仕候付、此節茂今日差越、去年例之通相手向御焼香仕
 候事、

一 適宜奉次御墓所江罷出候付、此方御墓所も
 活花・御茶湯差上、御焼香仕候事、

一 御菓子、去年之通かすていら一重差上
 候事、

一 御さんたい之御菓子、戻り懸内間見廻いたし
 候付、同所江五かけ、瀬底江四かけ進、餘者宜奉次江
 差遣候事、

差遣候事、

一 孫次ら相列罷越候事、

一 昼めしハ八寸二重二めし・ノ物相調、瀬底ニ而
 給、瀬底家内其外末々江少々ツ、くり候事、

一 廿二日、御奉行北条織部殿御安否御尋として、
 きんそかう一重口上書取添、瀬底里之子使を以
 差上候事、

但、堆錦八寸五分重箱ニ入、上ニ紙おそへ朱かミ
 押、きんそかう与銘書いたし候、

口上

時無御座、御座珍重候、御儀奉存候、為可奉伺御安否唐風菓子一重之内進上仕候、以上

三月廿二日

一廿三日、昨日之為御礼御口上書左記、

口上

弥無御座珍重存申候、昨日者安否為御尋珍敷御菓子一重之内被懸御意、每度御懇情忝存申候、右御礼可申入如此御座候、以上、

三月廿三日

北条織部

同日、幸地親方乘船、渡名喜親方乘船之儀、十一月二日山川出船、洋中段々及難儀、同十四日八重山島江漂着、船者両艘共水船二相成候処、乗込人数、上下共別条無之由、飛脚到来いたし候事、
一 両艘江積入候御銀、別条無之由、
一 幸地親方乘船、与那国しま江漂着、御銀・荷物早速取卸、当二月八日逢風破挽いたし候由、
一 渡名喜親方乘船、十一月十四日伊原間しま江漂着之当日、水船二相成候由、

一 廿八日、下り風不相続候付、上下やしき中下やしき差越、後ノへつる御神江風之御願仕候事、

四月廿一日

一 十七日、悴親方事当役ニ付而、明後十九日、那覇江罷下相詰候付、餞別之心入三而左之通馳走いたし、緩々相かたり候事、

一 那覇江列下り候人数末々迄、

一 右之外天願里之子親雲上・佐久真里之子親雲上・阿波根里之子親雲上・那覇宿具志堅にや

一 昼間室并真つる兩人ニ而、親方、阿波根里之子親雲上迄

耳もち、二才共々下供迄まんとし馳走いたし候事、

一 一晚者親方、士二才迄ちきあけ・なら茶手引相付、馳走いたし候事、

但、始而吸物二ツ取肴出、取替いたし、間之吸物馳走いたし候事、

池を乞つたし候事、

一 十九日、親方始御用意中取・筆者・評定所筆者此方江相揃、七ツ時分罷下候事、

一 浜川親雲上・次男浦崎筑登之親雲上・那覇国吉し・宜寿次かめ・孫次郎相列罷下候事、

一 吸物二ツ・取肴・焼酎出、取替いたし候事、

一 上下やしき中見送りニ罷出候付、大吸物馳走いたし候事、

池を乞つたし候事、

一 廿二日、御奉行北条織部殿を登り御進物与ノ左之通

四月中

一 十七日、悴親方事当役ニ付而、明後十九日、那覇江罷下相詰候付、餞別之心入三而左之通馳走いたし、緩々相かたり候事、

一 那覇江列下り候人数末々迄、

一 右之外天願里之子親雲上・佐久真里之子親雲上・阿波根里之子親雲上・那覇宿具志堅にや

一 昼間室并真つる兩人ニ而、親方、阿波根里之子親雲上迄

耳もち、二才共々下供迄まんとし馳走いたし候事、

一 一晚者親方、士二才迄ちきあけ・なら茶手引相付、馳走いたし候事、

但、始而吸物二ツ取肴出、取替いたし、間之吸物馳走いたし候事、

池を乞つたし候事、

池を乞つたし候事、

一 十九日、親方始御用意中取・筆者・評定所筆者此方江相揃、七ツ時分罷下候事、

一 浜川親雲上・次男浦崎筑登之親雲上・那覇国吉し・宜寿次かめ・孫次郎相列罷下候事、

一 吸物二ツ・取肴・焼酎出、取替いたし候事、

一 上下やしき中見送りニ罷出候付、大吸物馳走いたし候事、

池を乞つたし候事、

一 廿二日、御奉行北条織部殿を登り御進物与ノ左之通

三ノ下ノ事一

一 扇子一箱 二本入 一 白麻二束

一 多色ノ二十把

右月海一包 表向

一 右脇一反 七尋

一 右目録一通 表向

右月海一包 表向

一 廿四日 右御礼名渡山筑登之親雲上を以申上候、口上書

左記

口上

弥御勇健被成御座、珍重御儀奉存候、昨日者御目録両通之通結構成御品々

被懸貴意、御懇情之程忝次第奉存候、右之御礼乍憚以使申上候、以上

四月廿四日

四月廿四日

一 廿五日、喜名親方乘船酉時分入津、

一 私も迎ニ觀音堂罷出候処、嵩原親方茂御出、於堂暫御咄共いたし候事、

一夜之五ツ時分、喜名親方・前川里之子親雲上罷登候事、

一 入津振廻料手当不足之儀承、此方米壹俵・

錢百貫文差遣候事、

一 廿八日、古御奉行役々衆明日□□城間江御引越

被下候事、

一 扇子一箱 二本入 一 白麻二束

一 たはこ二十把

右目録一通 表向

一 白晒一反 七尋

一 塩鷹一羽

右目録一通 内証

一 廿四日、右御礼名渡山筑登之親雲上を以申上候、口上書

左記、

口上

弥御勇健被成御座、珍重御儀奉存候、昨日者御目録両通之通結構成御品々

被懸貴意、御懇情之程忝次第奉存候、右之御礼乍憚以使申上候、以上

四月廿四日

四月廿四日

一 廿五日、喜名親方乘船酉時分入津、

一 私も迎ニ觀音堂罷出候処、嵩原親方茂御出、於堂暫御咄共いたし候事、

一夜之五ツ時分、喜名親方・前川里之子親雲上罷登候事、

一 入津振廻料手当不足之儀承、此方米壹俵・

錢百貫文差遣候事、

一 廿八日、古御奉行役々衆明日□□城間江御引越

御出帆被成御考之由

五月申

十日、上原按司をなちやら次男出生いたし候処、翌十一日病氣差発、夜之七ツ過時分夭亡いたし、笑止之至候事、

十一日、婦真つる五男出生いたし、いづれも喜悅不斜、今日吉日ニ而川卸之規式執行相祝候事、

二十日、美里王子と御相談被成度儀有之候間、此方江御出被成度由、浜川親雲上を以御案内有之、何様之御相談ニ而候哉与、浜川江相尋候処、若按司御元服又者御跡目之儀ニ付御存寄有之、御相談之ため御出被成候由承、大切成儀ニ而宜寿次親方、喜名親方も相招待上候処、七ツ時分御出段々御相談いたし候事、

一 王子被仰候者、御嫡子御事御生質あしく段々御氣ニ不相叶儀而已有之、以後御嫡子江家督被仰付候ハ、御一門衆御くしを被引不宜筈候間、御嫡子者病身之筋ニ而御次男江御跡目被奉願度由被仰聞候付、兄弟三人ニ而申上候者、御嫡子御事もはや御歳も十九ニ御成被[□]候処、

被成由、御乗船八運天江廻船、陸地御越、彼元と御出帆被成御考之由、

五月申

十日、上原按司をなちやら次男出生いたし候処、翌十一日病氣差発、夜之七ツ過時分夭亡いたし、笑止之至候事、
十一日、婦真つる五男出生いたし、いづれも喜悅不斜、今日吉日ニ而川卸之規式執行相祝候事、

二十日、美里王子と御相談被成度儀有之候間、此方江御出被成度由、浜川親雲上を以御案内有之、何様之御相談ニ而候哉与、浜川江相尋候処、若按司御元服又者御跡目之儀ニ付御存寄有之、御相談之ため御出被成候由承、大切成儀ニ而宜寿次親方、喜名親方も相招待上候処、七ツ時分御出段々御相談いたし候事、

一 王子被仰候者、御嫡子御事御生質あしく段々御氣ニ不相叶儀而已有之、以後御嫡子江家督被仰付候ハ、御一門衆御くしを被引不宜筈候間、御嫡子者病身之筋ニ而御次男江御跡目被奉願度由被仰聞候付、兄弟三人ニ而申上候者、御嫡子御事もはや御歳も十九ニ御成被[□]候処、

御元服及延引、世上も相疑、御生質ハ御美質之由候処、何様之儀ニ而御元服及延引候哉、色々世□有之由承候、然者御一門衆江者、御嫡子御生付少も御不足無之段者能御存知之積候間、貴公様御所存之趣曾而御落着不被成、却而御身上之御為不宜筈候間、色々被思召、直御元服之一件被成御相談、此程之御所存ハ御取止ニ而、御沙汰なしニ被成候方可然奉存候由、申上候事、

閏五月中

一 去臘歸帆仕筈之大唐船入津、

一 一才府湧川里之子親雲上・官舎池原親雲上・

一 大筆者大城里之子親雲上・脇筆者諸見里親雲上

一 接貢船之儀何与申所ニ而破損、新崎里之子親雲上・

一 兼本筑登之親雲上其外六拾人ハ溺死之段到来、

一 苦々敷次第二候、

一 一才府龜川里之子親雲上・大筆者宜野山里之子親雲上ハ、

一 御用ニ付陸卸いたし、同主従十二人無程

一 二十人ハ生揚、六拾人ハ溺死之由、

一 勅使御兩人当二月北京御出立、五月朔日

一 福州御到着、閏五月三日御乗船被成候由、

一 勢頭森山親雲上去年九月起身、十月十七日

一 於中途病死被致候由、

一 九日波内市より阿波根根之子親雲上夜前那霸川入津

仕たる由三而、見舞久々ニ暫相かたり候事、

一 当月三日波照間島を大地江志出帆いたし候処、

風不順ニ而洋中及難儀、自物等不残打捨、

八重山しま難取付、直那覇港入津いたしたる由、

考之由

一 御銀八百三拾貫めほと、別条無之由、

一 幸地親方乗船ハ、三日晩又者四日朝者出帆

為仕筈与存候由、大地江罷渡、大和船を帰帆いたし候

考之由

一 同日吉日ニ而孫山戸髪撫、例之通弁財天堂参拜

罷帰、御仏壇室ニ而御焼香拜させ、火之神御前ニ参拜、

後ノ家江参り候事、

一 はあ前并乳母子抱後之座着、さうめん

吸物・千餅菓子馳走いたし候事、

一 右相済、山戸江祝候而塩一包・錢百五十一包

頂せ候事、

一 はあ前并乳母酌取、引出物錢壹貫文

くり候事、

一 男供二人・小飯持老人酌取、錢五貫文

くり候事、

一 行逢父天願里之子親雲上、髪撫候前川里之子親雲上

一九日、館内筆者阿波根里之子親雲上夜前那霸川入津

仕たる由三而、見舞久々ニ暫相かたり候事、

一 当月三日波照間島を大地江志出帆いたし候処、

風不順ニ而洋中及難儀、自物等不残打捨、

八重山しま難取付、直那覇港入津いたしたる由、

考之由、

一 御銀八百三拾貫めほと、別条無之由、

一 幸地親方乗船ハ、三日晩又者四日朝者出帆

為仕筈与存候由、大地江罷渡、大和船を帰帆いたし候

考之由、

一 同日、吉日ニ而孫山戸髪撫、例之通弁財天堂参拜

罷帰、御仏壇室ニ而御焼香拜させ、火之神御前ニ参拜、

後ノ家江参り候事、

一 はあ前并乳母子抱後之座着、さうめん

吸物・千餅菓子馳走いたし候事、

一 右相済、山戸江祝候而塩一包・錢百五十一包

頂せ候事、

一 はあ前并乳母酌取、引出物錢壹貫文

くり候事、

一 男供二人・小飯持老人酌取、錢五貫文

くり候事、

一 行逢父天願里之子親雲上、髪撫候前川里之子親雲上

さうめん之吸物馳走、祝候而式本入扇子一箱ヲ、
進候事、

一 私人婦江さうめん一籠持参有之候事、
大宜見親方乗船出船、

一 十五日、慶良間しま江冠船てらし火相見へ
候事、

一 十六日、遊撃乗船那覇港口迄参候事、
同日、勅使御乗船早々相見得候処、那覇港
北之方ニ乗行候付向風ニ相成、引舟數百艘出

候得共、向風殊ニ風力も強候付、引参かたく北谷
之沖江錠をうるし候事、

一 十七日、風靜ニ相成候付、入相時分那覇川乗入候処、浅ミニ
掘懸り、又者寄付一涯及騒動候処、先以無難ニ夜之
八ツ時分通堂前迄引入、勅使御下船彼是、御旧例之通
相済候事、

一 於天使館 上様兩勅使御対顔被遊御規式有之候処、
兩勅使御船酔氣ニ被成御座候由ニ而、御規式無御座由、

一 十八日、上様十六日・十七日那覇江御光越、兩日共御明通之御勤
被遊候処、何ぞ御差障共ハ無御座候哉、登城仕奉伺御機嫌度

候処、此頃足之痛有之、坂登共難叶候付、使を以御近習
衆迄奉伺御機嫌候而成合可申哉、前川里之子親雲上

を以頭島袋親雲上相談いたさせ候処、弥使ニ而奉伺御機嫌

一 十六日遊撃乗船那覇港に近まらば
同日勅使御乗船早々相見得候処、那覇港
北之方ニ乗行候付向風ニ相成、引舟數百艘出
候得共、向風殊ニ風力も強候付、引参かたく北谷
之沖江錠をうるし候事、

御都合宜候間、当番之御近習具志川里之子親雲上御取次可仕由被申候付、具志川御取次右之趣申上候処、いまた御起立不被遊候間、
拜置可申由、承知仕候、

一廿一日、幸地殿内御人数惣中、親方帰帆遅く別而御待兼被成候由承、下やしきニ招請仕候事、

一昼間、私るまんとう汁菜相付御馳走いたし、晩ハこおり方る手引一ツ之御休御馳走仕候事、

一宜寿次親方・喜名親方始上下やしき中皆々罷出、御取持仕候事、
一玉城はあ前相招、女共手を打おとり候事、

六月中

一廿一日、村山権助安否為尋、散砂糖一籠口上書取添、富田子城間村江差遣候事、

口上
暑氣甚候得共、弥御無為御勤珍重存候、
御安否御尋申達候印迄、散砂糖一籠

之内令進入之候、尤右ニ付御挨拶等ハ必可預御用捨候、以上、

六月廿一日
村山権助様

村山権助様

一廿九日、村山権助左之通到来、
口上

残暑之砌御座候得共、親方様御勇健被遊

御都合宜候間、当番之御近習具志川里之子親雲上御取次可仕由被申候付、具志川御取次右之趣申上候処、いまた御起立不被遊候間、
拜置可申由、承知仕候、
一廿一日、幸地殿内御人数惣中、親方帰帆遅く別而御待兼被成候由承、下やしきニ招請仕候事、
一昼間、私るまんとう汁菜相付御馳走いたし、晩ハこおり方る手引一ツ之御休御馳走仕候事、
一宜寿次親方・喜名親方始上下やしき中皆々罷出、御取持仕候事、
一玉城はあ前相招、女共手を打おとり候事、
六月中
一廿一日、村山権助安否為尋、散砂糖一籠口上書取添、富田子城間村江差遣候事、
口上
暑氣甚候得共、弥御無為御勤珍重存候、
御安否御尋申達候印迄、散砂糖一籠
之内令進入之候、尤右ニ付御挨拶等ハ必可預御用捨候、以上、
六月廿一日
村山権助様
一廿九日、村山権助左之通到来、
口上
残暑之砌御座候得共、親方様御勇健被遊

西原石段... 申上候御座候御尋申上候御
印迄、輕少之至御座候得共、そふめん一折三斤、
一森壺一ツ一斤進上仕度御座候間、各様々
宜様御取成奉願候、以上、

村山権助

伊江親方様

御取次衆

一 廿日、右為謝礼富田し差遣候、口上書左記、

口上

愈御無異御勤珍重存候、昨日ハ御口上書を以
預爾趣、殊そふめん一折・一森茶壺一ツ送給、毎々
入御念儀忝存候、右謝礼申達候、以上

喜り申

伊江親方

村山権助様

七月廿日

一 朔日、去三日浦添按司御卒去三付、前川里之子親雲上を以
上様江御悔申上、前読谷山王子・義村王子・宜野湾王子・
美里王子・読谷山王子御悔申上候事、

美里王子・読谷山王子御悔申上候事、

一 朔日、去三日浦添按司御卒去三付、前川里之子親雲上を以

口上

愈御無異御勤珍重存候、昨日ハ御口上書を以
預爾趣、殊そふめん一折・一森茶壺一ツ送給、毎々
入御念儀忝存候、右謝礼申達候、以上

前 伊江親方

村山権助様

七月廿日

一 朔日、去三日浦添按司御卒去三付、前川里之子親雲上を以
上様江御悔申上、前読谷山王子・義村王子・宜野湾王子・
美里王子・読谷山王子御悔申上候事、

御使を法橋上へ召合候事、御近習衆江相伺候上
中々也

二日親雲上御帆始而預御見廻、菓子・茶・吸物二ツ・
焼酎御馳走いたし候事

一日池原筑登之親雲上比嘉筑登之親雲上相招、上原与人砂川与人
願趣相頼候事、

一七日、親方御用二付、夜之四ツ時分罷登、明六ツ時分
罷下候事、

一八日、喜久里し罷出承候者、自分唐船御條甫(補)

二付筆者被仰付候ハ、右首尾方相濟迄之間、殿内江ハ

金城筑登之親雲上朝晩罷出、前川里之子親雲上相合こおり方

諸首尾承度由相頼候処、愈請合之由承候付、

左候ハ、こおり方諸首尾ハ何ぞ念遣無之筈候間、随分

右筆者相願可申由、相達候事、

一金城事、来ル十日迄三者那覇ニ而之勤相仕舞候間、

十一日者此方江も罷出候由、

一十一日、長紫金提一ツ此方懇望之由、泊山里筑登之親雲上
被承、屋比久にや江もたせ被遣被入念儀忝存候、

一此前ニも五ツ被遣、是紫金提も五ツ分ニ而候間、
屋比久にやニ而こおり方江相達、代錢首尾方

但、使を以御悔申上成合候哉、御近習衆江相伺候上
本文之通也、

二日、新里親雲上帰帆始而預御見廻、菓子・茶・吸物二ツ・
焼酎御馳走いたし候事、

一日、池原筑登之親雲上比嘉筑登之親雲上相招、上原与人砂川与人
願趣相頼候事、

一七日、親方御用二付、夜之四ツ時分罷登、明六ツ時分
罷下候事、

一八日、喜久里し罷出承候者、自分唐船御條甫(補)

二付筆者被仰付候ハ、右首尾方相濟迄之間、殿内江ハ

金城筑登之親雲上朝晩罷出、前川里之子親雲上相合こおり方

諸首尾承度由相頼候処、愈請合之由承候付、

左候ハ、こおり方諸首尾ハ何ぞ念遣無之筈候間、随分

右筆者相願可申由、相達候事、

一金城事、来ル十日迄三者那覇ニ而之勤相仕舞候間、
十一日者此方江も罷出候由、

いし候事

一 十九日、夜之五ツ時分親方那覇罷登、翌十四日
四ツ時分罷下候事

一 十四日、夜之四ツ時分唐料理八椀・から肴十、悴
瀬底里之子宰領ニ而持登候付、翌十五日宜寿次・

喜名江も配分いたし、いづれも打寄致賞味候事、
一 今日を評価物懸メいたし候付、構之官人衆

評価方江被罷出候付、御馳走いたし候手当
二 而相調置候処、早々被罷帰失費相成候由二而、
宿江相送候付、差遣候由、

宿江相送候付、差遣候由、

一 十九日、下知役与那覇親雲上罷出、左之通申出承届候事、

一 御宮普請ニ付而八段々相働普請奉行所考
入めり銭千四百貫文・米四石余引入、働之詮相立
候間、携人数御褒美被成下度、由申出之書付
見届候事、

一番所普請ニ付而ハ、当地頭代段々働之次第有之、
其外携人数出精相働、新普請之考り候

見届候事

一 二十日、夜之四ツ時分唐料理八椀・から肴十、悴
瀬底里之子宰領ニ而持登候付、翌十五日宜寿次・

右方より余引込渡舟中活動在候事...
御座候事

原由申

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

式万貫文余引入、島中為筋相成候間、相当
之褒美申付度由、両惣地頭江申出候書付見

届候事、

但、右通之書付最前表御方江差出候考候処、

番所普請ハ田地方相構不申候付、次書断之由ニ而被
差歸候付、本文両通之通之由、

一 地頭代西江親雲上事、来八月役儀代合年期
相当候処、御冠船諸手当之儀、地頭代手本ニノ
取行置候処、当分代合いたし候而ハ万端差支
申事候間、来年八月迄ハ勤通申付度由、

但、去申年地頭代ハ酉之年代合之筈候処、御冠船
何歟首尾係共有之候哉、一年ハ勤通ニ而
戌年ニ代合為仕由、

一 右之段ハ親方江も罷下直ニ相談いたす筈候処、
内儀病氣ニ付而難罷下、前川里之子親雲上ニ而
申上候様、相頼置候由、

一 十七日、伊江島番所普請ニ付而ハ、地頭代西江親雲上
段々存寄有之、別紙之通島中永代迄之為筋

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

御座候事...
御座候事

一 伊江親方日記三
 御座候、夜之七ツ時分御天亡、笑止之御事
 御座候、
 去十七日伊江島番所普請ハ、前文之通地頭代
 存寄を以島中為筋罷成候趣有之、表御方江
 差出候而成合候哉相考被申聞度旨、主取

一 伊江親方日記三
 御座候、夜之七ツ時分御天亡、笑止之御事
 御座候、
 去十七日伊江島番所普請ハ、前文之通地頭代
 存寄を以島中為筋罷成候趣有之、表御方江
 差出候而成合候哉相考被申聞度旨、主取

一 伊江親方日記三
 御座候、夜之七ツ時分御天亡、笑止之御事
 御座候、
 去十七日伊江島番所普請ハ、前文之通地頭代
 存寄を以島中為筋罷成候趣有之、表御方江
 差出候而成合候哉相考被申聞度旨、主取

一 伊江親方日記三
 御座候、夜之七ツ時分御天亡、笑止之御事
 御座候、
 去十七日伊江島番所普請ハ、前文之通地頭代
 存寄を以島中為筋罷成候趣有之、表御方江
 差出候而成合候哉相考被申聞度旨、主取

一 伊江親方日記三
 御座候、夜之七ツ時分御天亡、笑止之御事
 御座候、
 去十七日伊江島番所普請ハ、前文之通地頭代
 存寄を以島中為筋罷成候趣有之、表御方江
 差出候而成合候哉相考被申聞度旨、主取

罷成、両惣地頭江申出趣有之地頭代始相働候
 面々褒美申渡筈候処可成程ハ表御方江申出
 御書付ニ而も御褒美被成下候ハ、別而難有、
 以後島中之励ニも罷成事ニ而候処、田地方江ハ
 兼而相構不申儀ニ而、次書断之由候へ者、両惣地頭
 差出成合候哉、主取桑江里之子親雲上相招相談いたし
 候処、先例共相糺何分可申聞由ニ而、書付被請取
 候事、

一 廿一日、七ツ時分伊江按司御嫡子御誕生被成候段、
 御殿を為御知有之、早速前川里之子親雲上差遣、上下
 やしき惣中ニ而御祝儀申上候事、

一 御赤子様廿二日之朝、御氣色不宜様子ニ而、
 我喜屋里之子親雲上御頼段々御養生被成候処、
 無御叶、夜之七ツ時分御天亡、笑止之御事
 御座候、

一 去十七日伊江島番所普請ハ、前文之通地頭代
 存寄を以島中為筋罷成候趣有之、表御方江
 差出候而成合候哉相考被申聞度旨、主取

桑江里之子親雲上相招頼入候趣有之候処、今日前川里之子親雲上

評定所江罷出候付、左之通被申聞候由、

一先例相札候処、右様之働有之表御方江

申出御褒美被成下候例多々有之候間、

愈而惣地頭之申出可然由、

一両惣地頭之頭書地頭一通被差遣、是ハ

相頼不申候処、被入念儀存候、

一早々罷出右次第被申聞答候処、冊封前二而

御用繁多有之、延引罷成候由、

一島中之申出之書付何ぞ存寄無之、其通

三而可然由、

一廿七日、帳当筆者岡村筑登之親雲上相招、伊江島番所

普請三付、地頭代西江親雲上存寄之一件、表御方江

差出成合候哉相考申聞度相頼候事、

八月申

一朔日、冊封之御札式御旧例之通被為濟候事、

一上下やしき中仲村渠筑登之親雲上宅江罷越勅使

御行烈拜見仕候事、

一册封之御札式御旧例之通被為濟候事、

一上下やしき中仲村渠筑登之親雲上宅江罷越勅使

御行烈拜見仕候事、

藩上押入仕候に付、
 了り申上。高城難江仕候程、
 初より申上。高城難江仕候程、
 御本程に難勤ニ候へ者、
 親方・喜名親方兩人之内、
 申上候而ハ何様候哉、
 且かま戸も列登御拝申上
 候而成合候哉、
 彼是頭江相談を以何分被申聞
 度由、相頼候事

十二日、早朝前川里之子親雲上崎山御殿江差遣候処、

具志川被申候者、
 昨日承趣頭江相談いたし候処、
 宜寿次・喜名私名代を以屹度御拝申上候而ハ、
 格立申候間、御拝之儀ハ、
 相仕舞婦宅いたし候節申上可然候、
 今日ハ蒲戸
 崎山御殿江参上御拝申上させ可申旨、
 被申候由
 承、宜寿次・喜名江も申談候処、
 適頭相談之上右通
 候間、愈其通相勤可然由申談、
 かま戸崎山御殿江
 参上させ候事、
 一蒲戸事、前川里之子親雲上相付、
 九ツ時分御殿江

一蒲戸事、前川里之子親雲上相付、九ツ時分御殿江

事上江被召呼
二ツ御菓子被成下
段々御領物被成下
奉存候

明日ハ広帯ニ而崎山御殿江参上、今日段々
難有被仰付候御拝申上、御城江可罷登旨
具志川里之子親雲上る前川江被申付候由、

一明後日ハ先ハ、細帯ニ而御殿江参上いたし、
讀書仕候而勘定座江罷出候様是又具志川
前川江被申付候由

前川江被申付候由

御領物左記

- 一 御扇子一箱 式本入
- 一 中奉書一束
- 一 たはこ入一
- 一 鼻紙袋一ツ
- 一 唐筆十本箱入
- 一 一硯流きせる一本袋共
- 一 十四日、夜入候而蒲戸江ねはく之桐衣一ツ縫調
- 一 被成下段々難有次第奉存候事
- 一 十五日、仲秋之宴ニ而、兩勅使御登城方端御

旧例之通相濟候事

一 同日、勅使伊弉波命、森山島上原、比嘉里之子親雲上

比嘉里之子親雲上、比嘉里之子親雲上、比嘉里之子親雲上

比嘉里之子親雲上、比嘉里之子親雲上、比嘉里之子親雲上

一 十六日、西原間切我謝村御下やしきニ御召付

被仰付候事

一 廿一日、八重山島上原与人事、森山与人江御繰替、

惣横め役江転役、今日言上相濟候段、比嘉里之子親雲上

承寄、宜寿次・喜名江も通達いたし候事、

一 廿二日、知花しを以祝儀差遣候事、

一 来月朔日比御恭順被成下、其日御拝相勤

候由承候間、私忝ニ而菓子・酒代差遣申答候間、

其手当いたし候様、こおり方江申付候事

但、宜寿次・喜名江も相達候事

一 今日、筆筒寸法取用那覇宿江差下、渡嘉敷

し三而家作り方取計候様、問合いたし候事、

一 岡村筑登之親雲上養母疱瘡被相煩候由、昨日之

一 岡村筑登之親雲上養母疱瘡被相煩候由、昨日之

一 岡村筑登之親雲上養母疱瘡被相煩候由、昨日之

一 岡村筑登之親雲上養母疱瘡被相煩候由、昨日之

比嘉親登之親雲上る承、今日安否尋とよしの

葛一包・寒晒葛一包差遣候事、

一廿五日、悻親方見廻二酉時分罷登、翌廿六日

四ツ時分罷下候事、

一今日、兩勅使沖之寺辺江御出被成、汐之

満ひり御覽被成候由、世上御番所御不和之由

相聞得候処、左様之儀二而ハ無之、別而御和談

御了寧之由、致承知候

一廿七日、例之通

上様・佐敷按司加那志様・野嵩按司加那志様、悻親方

前川里之子親雲上を以奉伺御機嫌、散砂糖御初一重ツ、

献上仕候事、

一美里御殿其外例之通差上候事、

一御近習頭喜世村親雲上江も差上候、御残与て

八寸一重、親方差遣候

一廿八日、御例之通崇元寺被遊行幸候事、

九月中

一三日、兩勅使弁之嶽御見物、御登之時嵩原

九

為り下り可候在山内及腰懸を履く可候也

相濟る可し此後取らる

一日、御下之時読谷山御殿御腰懸、段々御例之通

相濟、酉時分御帰館被成候事、

四日、此頃供之者共相懈り朝寝いたし、奉公方不出精

之体ニ相見得候付、こほり鳥袋にや召寄、随分

相談いたし候様、申付候事、

一七日、父天願筑登之親雲上被罷出ニ付、相頼候趣ハこおり方物方

之儀、喜久し頭号二号船御條^補甫ニ而筆者被

仰付候付、彼之首尾方相濟迄之間、前川里之子親雲上江

足申付置候処、前川もこほり方諸首尾いまた

取覚無之候付、金城筑登之親雲上加勢相頼置候処、金城も

仕立物方勤繁多有之、朝暮隙次第罷出候

体ニ而念遣存申事候、御方江も当分之勤ニ而、

毎日田舎江被差越事ニ而、御面働

至極候へ共、隙次第被罷出こほり方諸首尾相談

被致度、相頼候事、

一悴事、近年中在番も被仰付答候故、未

其手当も無之、尤今来年段々之物入も

差見得候間、急度来夏迄之小賦取究

候事

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

一 方々下候後分所創元三冊

被差出度由、申談候事、

一方々江借渡錢、本利共取立二冊、去年

差出被置候、もはや増減有之筈候間相

しらへ被差出度由、相頼候事、

一六日、九ツ時分親方罷登、翌七日五ツ時分罷下候事、

一御餘計銀支配方口上控、私考之通地取調

度由、

一拝借銀・才覚銀返上方之賦、早々可申付由、

相達候事、

一九日、申年御冠船内日記を忤心得二可相成

条々抜書いたし、親方夜前罷登候付、直二

相渡候事、

一同日、上下やしき中いつれも下之御殿何かし

宿借いたし、勅使御行烈拝見、又ハ波龍船

見物いたし候事、

一忤ハ彼方々直ニ那霸江罷下候事、

但、忤々昼休重一組、那霸宿々持寄候付、

いつれも寄合給候事、

一 古法儀ハ程々下松時、再入ノ与沙降ノ系

不月、秋ニ至ルニ先カ上ノ事

一 未初ハ初月ト古記ハ左界ノ事

一 十二日、濱川親雲上被罷出承候者、昨日義村

相談被成候付、最初ハ此中之御所存御両所江

被申上候処、御両所ノ段々義筋を以御相談被成

候付、終ニ御落着被成、当月中御元服

被成候筋御決被成、誠以目出度御儀ニ、いつれも

大慶安堵仕候由、

一 右一件ニ付、聞得大君加那志甚被為成

御心配、両王子江被成御相談、両王子ノ

前読谷山王子様江も御相談之上御出為

被成由、承知仕候由

一 読谷山御殿ニ而御相談之趣ハ、王子此中之

御所存御はり通せ、御承引無御座候ハ、王子ハ

御隠居ニ而間切江御住居、若按司江御

家督被成候筋御相談為有之由、内々承知

家督被成候筋御相談為有之由、内々承知

家督被成候筋御相談為有之由、内々承知

家督被成候筋御相談為有之由、内々承知

一 十一日、佐渡山親方江、私・悴兩人ニ而御餞之品、

前川里之子親雲上を以差上候事、

一品物ハ別冊ニ相記候故、略ス

一 十二日、濱川親雲上被罷出承候者、昨日義村

王子・宜野湾王子美里御殿江御出、若按司御元服之儀、御

相談被成候付、最初ハ此中之御所存御両所江

被申上候処、御両所ノ段々義筋を以御相談被成

候付、終ニ御落着被成、当月中御元服

被成候筋御決被成、誠以目出度御儀ニ、いつれも

大慶安堵仕候由、

一 右一件ニ付、聞得大君加那志甚被為成

御心配、両王子江被成御相談、両王子ノ

前読谷山王子様江も御相談之上御出為

被成由、承知仕候由

一 読谷山御殿ニ而御相談之趣ハ、王子此中之

御所存御はり通せ、御承引無御座候ハ、王子ハ

御隠居ニ而間切江御住居、若按司江御

家督被成候筋御相談為有之由、内々承知

家督被成候筋御相談為有之由、内々承知

江心

一日、豊見城按司昨日御元服御拜二付、為御祝儀御酒代品物等差上候付、為御礼御出被成候付、左之通御馳走仕候事、一盃肴立三献差上、御取替仕候事、一室并真つるも罷出懸御目、御祝申上候事、一十七日、宮里按司御元服之言上相濟候付、翌一十八日美里御殿江参上、御祝儀申上候処、宜寿次親方在合二而、緩々御咄仕候様御挨拶有之、夜之九ツ時分迄御咄いたし帰宅仕候事、一御吸物・御休等段々御馳走被仰付候、一廿九日、早朝悴親方罷出承候者、冠船御用意銀百貫め余諸払引除御除計相見得候付、支配方吟味いたし候処、去子年御冠船之時御銀及不足、御格護銀之内、式百貫め御寄替被成下候処、いまた御返弁差上不申候、此節御在合之時差上不申候へ者、無期日及延引申替候間、右御銀二而差上候而、何様候哉与申談事二而、夜前四ツ時分

仕候由、

同日、豊見城按司昨日御元服御拜二付、為御祝儀御酒代品物等差上候付、為御礼御出被成候付、左之通御馳走仕候事、一盃肴立三献差上、御取替仕候事、一室并真つるも罷出懸御目、御祝申上候事、一十七日、宮里按司御元服之言上相濟候付、翌一十八日美里御殿江参上、御祝儀申上候処、宜寿次親方在合二而、緩々御咄仕候様御挨拶有之、夜之九ツ時分迄御咄いたし帰宅仕候事、一御吸物・御休等段々御馳走被仰付候、一廿九日、早朝悴親方罷出承候者、冠船御用意銀百貫め余諸払引除御除計相見得候付、支配方吟味いたし候処、去子年御冠船之時御銀及不足、御格護銀之内、式百貫め御寄替被成下候処、いまた御返弁差上不申候、此節御在合之時差上不申候へ者、無期日及延引申替候間、右御銀二而差上候而、何様候哉与申談事二而、夜前四ツ時分

嘗亦存りト奉工右内ノ江原殿内江參上、右次第内々得御差図候処、吟味通如何ニも御同意被思召候間、御所帶方江も沙汰無ニ而其取計可仕由、被仰下候由、

十月中

一、勅使御乗船被成候事、

一、五日、順風相成御出船被成候事、

一、一番謝恩船、二番勅使御乗船、三番副將御乗船、四番御返船被成御出船候事、

同日、右御出船為見物家中人数早朝下やしき

罷越見申候処、五ツ時分々四ツ時分迄御出帆被成候事、

一喜名里之子親雲上近々帰帆之筈ニ而、宜寿次・喜名人数も相招風之御願いたし、御船御出船

ニ付而も相祝緩々相慰、夜之八ツ過時分帰宅いたし候事、

一昼間ハ私々四ツ組之休馳走いたし、晩ハ銘々糝共取寄、且悴々御出帆之祝儀ニ罷出候

人数江馳走いたしたる由ニ而、料理到来有之、

一、星百八私々早御休馳走つり候ハ法、

一、糝共取寄、且悴々御出帆之祝儀ニ罷出候

人数江馳走いたしたる由ニ而、料理到来有之、

一、人殺ト地走つり候ハ法、

一、糝共取寄、且悴々御出帆之祝儀ニ罷出候

人数江馳走いたしたる由ニ而、料理到来有之、

一、人殺ト地走つり候ハ法、

是又寄合候事

一 宜寿次々喜名始彼ノ家内人数も皆々

罷出候事

一 上原按司御室も子共相烈罷出候事

一 宜寿次々あけさうめん、喜名々満頭一重并

八寸一重二茶請相調持參、

一 知念筑登之親雲上相招、うた三味せんいたさせ候事、

一 七日、親方罷登、今般御冠船ニ付御余計銀

貳百貫めハ、御内原御蔵江差上候存念ニ而、存寄之

次第口上扣地取持登候而、喜名親方しらへ三人

翌八日嵩原親方江懸御目候処別而御同意

御喜悦ニ被思召候由被仰聞、頭喜世村親雲上江も内々

入披見候様被仰聞、夜入候而喜世村江罷出、所存

之趣委細相達、口上扣も入披見候処、是ハ頂上之

次第、上様も御喜悦可被遊与被申候由、

一九日、右御銀之儀、今焼鑿ニ相詰候様手当

可申付由、御物座被仰付候間、早々罷下

其手当不申付候而不叶由ニ而、八ツ時分罷下

候事、

上様も御喜悦可被遊与被申候由、
一九日、右御銀之儀、今焼鑿ニ相詰候様手当
可申付由、御物座被仰付候間、早々罷下
其手当不申付候而不叶由ニ而、八ツ時分罷下
候事、

日、勅使御乘船慶良間島へ御出船被成候由、同十一日飛却到来、

十二日、冠船御余計銀式百貫め廻り入候而、御内原御蔵江相納候由、

十三日、喜名親方上与那原地頭所江御繰替被仰付候事、

十五日、奥平親方乗船之儀、去ル九日山川出船、十三日慶良間島座間味間切阿間泊江着船

いたし候由、今日飛却来着、親方始いつれも末々迄別条無之由、七ツ時分喜名里之子親雲上書状

到来、皆々大慶不斜候

十七日、親方冠船方勤首尾能相濟、罷登候事、一奥平親方帰帆前二而、伊江按司御伯母

御始、奥平・垣花惣御人数招上、親方帰宅之祝儀又ハ御慰被成候事、

一知念・知花御前此方女子共相招候事、一銘々持参物、又ハ入用之品など到来有之候事、

一手引一ツ之料理、親方つと菓子共御馳走いたし候事、

一廿一日、知花し事、去年十二月より此方奉公入念相勤候処、最早渡嘉敷し・瀬底子那覇

二而之勤相仕舞罷帰候付、知花ハ差免申答候、

同日、勅使御乘船慶良間島へ御出船被成候由、同十一日飛却到来、

十二日、冠船御余計銀式百貫め廻り入候而、御内原御蔵江相納候由、

十三日、喜名親方上与那原地頭所江御繰替被仰付候事、

十五日、奥平親方乗船之儀、去ル九日山川出船、十三日慶良間島座間味間切阿間泊江着船

いたし候由、今日飛却来着、親方始いつれも末々迄別条無之由、七ツ時分喜名里之子親雲上書状

到来、皆々大慶不斜候

十七日、親方冠船方勤首尾能相濟、罷登候事、一奥平親方帰帆前二而、伊江按司御伯母

御始、奥平・垣花惣御人数招上、親方帰宅之祝儀又ハ御慰被成候事、

一知念・知花御前此方女子共相招候事、一銘々持参物、又ハ入用之品など到来有之候事、

一手引一ツ之料理、親方つと菓子共御馳走いたし候事、

一廿一日、知花し事、去年十二月より此方奉公入念相勤候処、最早渡嘉敷し・瀬底子那覇

二而之勤相仕舞罷帰候付、知花ハ差免申答候、

然者、知花事生質ハ宜候へ共いまた筆談之
 嗜上分ニ無之、折角稽古方出精させ不申候而
 不叶事ニ而、私上与那原江罷出親方江教方
 相頼候処、無扱親類之事候間、頼無之候共教訓
 方ハ可仕儀候間、随分指南可仕由承候事、
 一廿二日、吉日ニ而候間上与那原江罷出、師匠
 付可仕由申付、左之通持参物相調相渡候事、
 一 焼酎一瓶 一沸三合 一玉子三十
 一 錢百貫文、筆紙墨代とノ相讓候事、
 一 廿七日、御近習頭慶世村親雲上見廻被罷出
 候付、緩々相咄、吸物二ツ・合餅小平相付馳走
 いたし、焼酎・取肴出候事

上様御筆いままた拝領不仕筈候間、蒲戸ニ付而
 奉願候而ハ何様候哉与被申候付、私申候者、
 尚哲様 尚温様御筆先年頂戴仕候処、
 上様御筆ハ未頂戴不仕、いつそ 御前参上仕
 候時奉願度、此程心ニ存合居候処、此比足之痛
 有之御機嫌伺も登城不仕候付、延引罷成候、
 蒲戸ニ付而奉願候様被申候間、愈かま戸
 二付而奉願筈候間、御方も宜御心得成合候様
 被取計度、相頼候事、

門意御座候者、此節伊江親方冠船方諸
 首尾被聞召上候処、彼是宜相届御喜悅被
 思召上候、如何様大親方平日教訓方宜、
 冠船方御用も内々相談共被致、右通
 諸篇宜敷可有之与被思召上由、御沙汰
 御座候由奉承知、至私難有次第奉存由、
 御礼手を合候事、
 猶又御意御座候者、親方勤前被聞召上候処、
 彼是取計得宜敷、畢竟撰政・三司官人体
 御見合宜敷候故、右通御喜悅被思召上候、
 向後諸役も人品入念可見合旨被仰下候由、
 一俸冠船勤首尾克相仕舞、帰宅仕候為祝儀、
 伊江島地頭代并さはくり中、島中より
 塩ふた到来有之候二付、御初献上仕度奉願、今朝
 渡嘉敷しを以慶世村親雲上江相談させ候処、
 愈献上仕可然由承居候処、慶世村見廻被
 罷出候付、直ニ申談候処、弥明日崎山御殿江
 被遊御座候間、彼御殿ニ而被差上可宜与
 被申候二付、其手当申付候事、
 一廿八日、伊江島到来之塩ふた、左之通
 拜膳崎山御殿江被遊御座候付、渡嘉敷し
 を以奉伺御機嫌差上候処、御喜悅被遊

昨一冠船初首尾克相仕舞、帰宅仕候為祝儀、
 伊江島地頭代并さはくり中、島中より
 塩ふた到来有之候二付、御初献上仕度奉願、今朝
 渡嘉敷しを以慶世村親雲上江相談させ候処、
 愈献上仕可然由承居候処、慶世村見廻被
 罷出候付、直ニ申談候処、弥明日崎山御殿江
 被遊御座候間、彼御殿ニ而被差上可宜与
 被申候二付、其手当申付候事、
 一廿八日、伊江島到来之塩ふた、左之通
 拜膳崎山御殿江被遊御座候付、渡嘉敷し
 を以奉伺御機嫌差上候処、御喜悅被遊

一御意御座候者、此節伊江親方冠船方諸
 首尾被聞召上候処、彼是宜相届御喜悅被
 思召上候、如何様大親方平日教訓方宜、
 冠船方御用も内々相談共被致、右通
 諸篇宜敷可有之与被思召上由、御沙汰
 御座候由奉承知、至私難有次第奉存由、
 御礼手を合候事、
 猶又御意御座候者、親方勤前被聞召上候処、
 彼是取計得宜敷、畢竟撰政・三司官人体
 御見合宜敷候故、右通御喜悅被思召上候、
 向後諸役も人品入念可見合旨被仰下候由、
 一俸冠船勤首尾克相仕舞、帰宅仕候為祝儀、
 伊江島地頭代并さはくり中、島中より
 塩ふた到来有之候二付、御初献上仕度奉願、今朝
 渡嘉敷しを以慶世村親雲上江相談させ候処、
 愈献上仕可然由承居候処、慶世村見廻被
 罷出候付、直ニ申談候処、弥明日崎山御殿江
 被遊御座候間、彼御殿ニ而被差上可宜与
 被申候二付、其手当申付候事、
 一廿八日、伊江島到来之塩ふた、左之通
 拜膳崎山御殿江被遊御座候付、渡嘉敷し
 を以奉伺御機嫌差上候処、御喜悅被遊

り候御返詞奉承知候事、

塩ふた三十斤進物台ニのせ、棕栳皮敷、上も

右皮ニ而おそひ、御辻おそひ、

一渡嘉敷し御近習詰座江被招呼、御菓子

被成下候由、

一同十斤御残之由ニ而、慶世村親雲上江もたせ

進候事、

十一月中

七月廿七日、上与那原里之子親雲上相招申談候者、此節為土産四書

俚諺鈔相讓候段、此間承候、右書物之儀

多年懇望之書ニ而、先年其方上国之時も

誂越候処、不相求得残念ニ存候処、先年相頼候趣

無失念、段々世話を以此節求得相讓候段、厚心入

之儀忝存候、然ながら大分之冊数ニ而高直之積

二候間、此ハ用物之筋ニ而代銀相渡候間、土産(者力)□

輕品相讓度由申聞候処、此書物之儀私懇望

之段、兼而承居候間、とふか相求進度存段々

相働求出、遠国々之志候間、必受納いたし度由、

頻ニ承候付、是又尤之儀忝存候間、愈受用

申答候、去ながら誠ニ深切之心入難申謝相考

候処、其方事御扶□所等不被仰付内者、家内

当迫之積候間、錢千貫文ハ見次いたし度

不承、在、一、つ、り、ぬ、ふ、に、さ、き、か

把門館下中、つ、り、ぬ、ふ、に、さ、き、か、上、家、普、請

十七日吉日ニ而移徙いたし、前川殿内御

家内招上、御祖母様御出いつれも罷出候付、

前川さうめん御吸物、夜めし致御馳走

相祝候事、

十八日、新宅御覽候様、上下やしき中相招

料理さうめん御馳走いたし候付、私も罷出

煖庫・煎茶持参いたし候事、

十二月 中

朔日、親方冠船動方首尾克相濟候付、為

御褒美加増知六拾石被成下、難有次第

奉存候、

一 去月廿九日幸地親方御懷御卒去、

忌係三而引入居候付、登城御拜可申上候、

一言上写、下こおり筑登之捧参り候付、親方簪差

大事ニ而給候事、

但、筑登之、例之通親方相伴ニ而三献馳走

いたし候事、

一四日、今日々親方忌晴候付、登城御拜申上候事、

一 御近習真壁里之子親雲上御使、私并親方江

御祝詞被成下候付、御三献・御茶・御菓子

上使御書院當知念里之子親雲上御出被成候付、
御取持例之通相濟候事、

一六日、加増知高頂戴仕候御拜相勤候事、
一上使御書院當知念里之子親雲上御出被成候付、
御取持例之通相濟候事、

一御相伴真喜屋親雲上、御見廻宜寿次親方
上与那原親方

一当分、幸地親方御懷御不幸無間候故、
祝儀ハ召延、上下やしき中相招、料理

さうめん・吸物馳走いたし候事、
一十日、村山権助見廻被罷出候付、同十二日左
之通口上書を以謝礼差遣候事、

口上
弥御無為御勤珍重存候、一昨日者
寒中為御尋預御見廻、入御念儀
忝存候、右御礼申達候、以上

十二月十二日
前
伊江親方
村山権助様

一十五日、左之通到来、
口上
前親方様御勇健被遊御座恐悦候儀

一十六日、左之通到来、
口上
前親方様御勇健被遊御座恐悦候儀

一十七日、左之通到来、
口上
前親方様御勇健被遊御座恐悦候儀

一十八日、左之通到来、
口上
前親方様御勇健被遊御座恐悦候儀

一十九日、左之通到来、
口上
前親方様御勇健被遊御座恐悦候儀

奉存候、然者輕少之儀御座候得共、中
經節一連寒中為御尋進上仕度
御座候間、各様より成合申候様御披露
奉頼候、以上、
十二月十五日
村山權助

前
伊江親方様

十六日、口上書を以昨日之謝礼、又ハ安否尋と
散砂糖一籠差遣候事、
口上
愈御無為御勤珍重存候、昨日茂寒中
為御尋經節一連被贈給、毎度御
心入之段忝存候、右謝礼且御安否
為御尋、散砂糖一重之内致進入之候、以上
十二月十六日
前
伊江親方
村山權助様

愈御無為御勤珍重存候、昨日茂寒中
為御尋經節一連被贈給、毎度御
心入之段忝存候、右謝礼且御安否
為御尋、散砂糖一重之内致進入之候、以上
十二月十六日
前
伊江親方
村山權助様

愈御無為御勤珍重存候、昨日茂寒中
為御尋經節一連被贈給、毎度御
心入之段忝存候、右謝礼且御安否
為御尋、散砂糖一重之内致進入之候、以上
十二月十六日
前
伊江親方
村山權助様

村山權助様

一十八日、来ル廿一日亡母様亡叔母様廿五年回忌
御弔、且当時風氣もあしく候付、奥之山
座主御頼祈祷仕候事、
一兼而善興寺座主御頼いたし置候処、
昨日御城、今日崎山御殿ニ而御祈祷被
仰付候付、御断有之、本文之通也、

波之上座主も御出御咄被成度由、招上
 候処、支之儀有之御出不被成候、
 一善興寺ハ崎山御殿御勤相濟次第御出、御咄
 被成度由申上置候付、酉過時分御出
 緩々御咄、一同御帰被成候、
 一御相伴宜寿次親方・上原親雲上、御見廻
 大田里之子親雲上・高本筑登之親雲上被相勤候、
 一御馳走昼間合もち、晩本せん五ツ組
 手引・大平・間之菓子・間之吸物・硯
 ふた・焼酎、膳部之通也、
 一廿一日、亡母様亡叔母様廿五年御回忌御
 弔相濟候事、
 一慈眼院次陰長老御頼、唯納・同宿
 四人御烈御出、懺法・施餓鬼御勤被
 成候事、
 一御膳部・御焼香人数、別冊之通、
 一方々々御香御酒代御菓子右同断、
 一門膳部ハ焼香人別冊也、
 一善興寺ハ崎山御殿御勤相濟次第御出、御咄
 被成度由申上置候付、酉過時分御出
 緩々御咄、一同御帰被成候、
 一御相伴宜寿次親方・上原親雲上、御見廻
 大田里之子親雲上・高本筑登之親雲上被相勤候、
 一御馳走昼間合もち、晩本せん五ツ組
 手引・大平・間之菓子・間之吸物・硯
 ふた・焼酎、膳部之通也、
 一廿一日、亡母様亡叔母様廿五年御回忌御
 弔相濟候事、
 一慈眼院次陰長老御頼、唯納・同宿
 四人御烈御出、懺法・施餓鬼御勤被
 成候事、
 一門膳部ハ焼香人別冊也、
 一方々々御香御酒代御菓子右同断、

波之上座主も御出御咄被成度由、招上
 候処、支之儀有之御出不被成候、
 一善興寺ハ崎山御殿御勤相濟次第御出、御咄
 被成度由申上置候付、酉過時分御出
 緩々御咄、一同御帰被成候、
 一御相伴宜寿次親方・上原親雲上、御見廻
 大田里之子親雲上・高本筑登之親雲上被相勤候、
 一御馳走昼間合もち、晩本せん五ツ組
 手引・大平・間之菓子・間之吸物・硯
 ふた・焼酎、膳部之通也、
 一廿一日、亡母様亡叔母様廿五年御回忌御
 弔相濟候事、
 一慈眼院次陰長老御頼、唯納・同宿
 四人御烈御出、懺法・施餓鬼御勤被
 成候事、
 一御膳部・御焼香人数、別冊之通、
 一方々々御香御酒代御菓子右同断、

嘉慶十三年八月十六日 勤方 嫡孫蒲戸勤方二付而諸事日記

八月 中

十一日入相時分

上様方御近習具志川里之子親雲上御使を以被仰下候、
孫蒲戸事、御側御遣被仰付候、親方江ハ私
可相達由奉承知候付、存懸も無御座
御意之趣難有次第奉存候、弥親方江者只今
那覇江差遣拜聞させ可申由、御返詞申上候事、
一具志川江相談いたし候者、右御拝之儀明日
私登 城申上筈候処、此比足之痛有之、登
城難仕、且悴親方ハ当分之勤ニ而差当□候

嘉慶十三年戊辰八月十六日 勤方 嫡孫蒲戸勤方二付而諸事日記

八月 中

八月 中

十一日入相時分

上様方御近習具志川里之子親雲上御使を以被仰下候、
孫蒲戸事、御側御遣被仰付候、親方江ハ私
可相達由奉承知候付、存懸も無御座
御意之趣難有次第奉存候、弥親方江者只今
那覇江差遣拜聞させ可申由、御返詞申上候事、
一具志川江相談いたし候者、右御拝之儀明日
私登 城申上筈候処、此比足之痛有之、登
城難仕、且悴親方ハ当分之勤ニ而差当□候

一 御用筋も御免ニ而、一刻も詰所難相離勤ニ候へ者、登城難叶事候間、宜寿次親方・喜名親雲上兩人之内、私名代を以御拝申上候而者何様候哉、且かま戸も列登御拝申上候而成合候哉、頭江も相談を以何分被申聞度由、相頼候事、十二日、早朝右返答為可承、前川里之子親雲上崎山之御殿江差遣候処、具志川被申候者、昨日承趣頭江相談いたし候処、宜寿次・喜名など私名代ニ而屹度御拝申上候者格立候間、御拝之儀、忝親方当分之勤相仕舞罷登候節申上可然候、今日ハ蒲戸崎山之御殿江參上御拝申上させ可申旨承、宜寿次・喜名江も申談候処、適頭江も相談之上右通候間、弥其通相勤可然由申談、かま戸崎山御殿江參上させ候事、一 蒲戸事、前川里之子親雲上相付、九ツ時分崎山御殿江參上仕候処、御前江被招呼、御吸物二ツ・御菓子・御茶被成下、御盃頂戴仕、御手引一ツ之御休、高嶺里之子相伴ニ而被成下、左之通段々拝領物被仰付、冥加至極難有次第奉存候事、一 明日者広帯ニ而參上、今日段々難有被仰下候御拝申上候様、一 明後日夕先者、細帯ニ而御殿江參上、読書仕候而

初定座江罷出候様、是又具志川より前川

油領物左記

一和御扇子一箱 二本入

一帯地一筋 京ろく緞子 一唐筆十本 箱入

一唐筆十本 箱入 一懐中きせる一本 銀流

一十四日、夜入候而表衾はく裏緋はふたい之胴衣

縫調被成下、難有次第御座候事、

一十五日、勅使御帰館被成候付、早速御用有之、御二階

御殿江参上仕、御召附三而崎山御殿江参上、段々

御断共奉承知、御意之趣有之、御殿江夜詰いたし

候事、

一十六日、西原間切我謝村江御召付被仰付候事、

一夜入候而崎山御殿江被遊御帰殿、かま戸も御召付

勘定座江罷出候様、是又具志川より前川
被申付候由

拝領物左三記

一和御扇子一箱 二本入 一中奉書 一束

一たはこ入一 極上 一鼻かミ袋一 極上

一帯地一筋 京ろく緞子 一唐筆六丁 箱入

一唐筆十本 箱入 一懐中きせる一本 銀流

一十四日、夜入候而表衾はく裏緋はふたい之胴衣

縫調被成下、難有次第御座候事、

一十五日、勅使御帰館被成候付、早速御用有之、御二階

御殿江参上仕、御召附三而崎山御殿江参上、段々

御断共奉承知、御意之趣有之、御殿江夜詰いたし

候事、

一十六日、西原間切我謝村江御召付被仰付候事、

一夜入候而崎山御殿江被遊御帰殿、かま戸も御召付

直御殿江参上、今夜も相詰候事、

但、御馬御乗せ、供も外城共江被仰付、此方より

供も出不申候事、

一十七日、卓道具御殿江持参候様、昨日高嶺里之子

豊本にや江被申付、今朝卓道具一通書物共取集、

豊本にや御殿江持参候事、

一飯箱も御用有之、□日御殿江持参候、左候へハ

勘定座江出候時も、朝昼之飯も被成下筈奉存候事

同日

上様波龍舟御見物ニ松崎江被遊御高越、蒲戸茂

御召付ニ而罷越、御帰城之砌一刻御暇乞ニ而、高嶺

里之子同心ニ而帰宅いたし、暫咄共いたし、高嶺一同罷出

候事、

一頭喜世村親雲上、昨日嫡孫誕生ニ而御帰城、懸

喜世村宅江被遊御入候付、かま戸も御在所江罷出

候事、

一高嶺ニ而諸事教訓いたし度由、相頼候事、

一頭又具志川里之子親雲上江も、此間かま戸事相頼申入

置候得共、高嶺ニ而も宜相心得申入度由、相頼候事、

一御持懸之御腰差、銀之御きせる共昨日被成下

由ニ而差出候付、いづれも拝見いたし、難有次第奉存候事、

一十一日、御馬御通ニ識名御殿江被遊御光越、御

召付相勤、夜入候而崎山御殿江御帰殿被遊

候事、

一廿二日、此中之通於先御茶屋読書被仰付、

御講読聴聞、勘定座江出候由、豊本にや

申出候、

一於勘定座ニ休式も御城を被成下候由、

□廿四日、末吉江被遊御光越候付、御召付被仰付

候事、

同日

上様波龍舟御見物ニ松崎江被遊御高越、蒲戸茂

御召付ニ而罷越、御帰城之砌一刻御暇乞ニ而、高嶺

里之子同心ニ而帰宅いたし、暫咄共いたし、高嶺一同罷出

候事、

一頭喜世村親雲上、昨日嫡孫誕生ニ而御帰城、懸

喜世村宅ニ而遊御入候付、かま戸も御在所江罷出

候事、

一高嶺ニ而諸事教訓いたし度由、相頼候事、

一頭又具志川里之子親雲上江も、此間かま戸事相頼申入

置候得共、高嶺ニ而も宜相心得申入度由、相頼候事、

一御持懸之御腰差、銀之御きせる共昨日被成下

由ニ而差出候付、いづれも拝見いたし、難有次第奉存候事、

一十一日、御馬御通ニ識名御殿江被遊御光越、御

召付相勤、夜入候而崎山御殿江御帰殿被遊

候事、

一廿二日、此中之通於先御茶屋読書被仰付、

御講読聴聞、勘定座江出候由、豊本にや

申出候、

一於勘定座ニ休式も御城を被成下候由、

□廿四日、末吉江被遊御光越候付、御召付被仰付

候事、

一 女有朝名唐名各乗御用ニ付、左之通書付
差上候事

伊江親方嫡子蒲戸

唐名

各乗

向得宗 朝經

名乗

一 女六日、儀容御殿江御召付ニ而參上、翌廿七日二者
御側遣共江鷹取方被仰付、御見物ニ末吉江
被遊御光越候付、御召付被仰付候事、

一 女八日、女家左寺江遊御幸御用候事
湯かかり髪結、被遊御帰城ニ付、早速
崎山御殿江參上仕候事、

一 今朝、御内原江被召呼、

依敷按司加那志様 野高按司加那志様奉拜、
野高按司加那志様御干菓子一包為被成下由、
此方江持參ニ而、いつれも致頂戴、難有次第奉候事、

九月中

一 廿五日、兩勅使様弁之獄御見物御登之時、
高原殿内御腰懸、御帰之時読谷山御殿
御腰懸、段々御馳走・をとり御見物、西過時分
御帰館被成候事、

一 上様をかま戸江、赤地之金入緞子細帯一〇拝領

一 廿五日、蒲戸唐名各乗御用ニ付、左之通書付
差上候事、

伊江親方嫡子蒲戸

唐名

各乗

向得宗 朝經

一 廿六日、識名御殿江御召付ニ而參上、翌廿七日二者
御側遣共江鷹取方被仰付、御見物ニ末吉江
被遊御光越候付、御召付被仰付候事、

一 廿八日二者宗元寺江被遊行幸候付、御暇乞ニ而
帰宅いたし、湯かかり髪結、被遊御帰城ニ付、早速
崎山御殿江參上仕候事、

一 今朝、御内原江被召呼、
佐敷按司加那志様 野高按司加那志様奉拜、
野高按司加那志様御干菓子一包為被成下由、
此方江持參ニ而、いつれも致頂戴、難有次第奉候事、

一 廿九日、兩勅使様弁之獄御見物御登之時、
高原殿内御腰懸、御帰之時読谷山御殿
御腰懸、段々御馳走・をとり御見物、西過時分
御帰館被成候事、

一 上様をかま戸江、赤地之金入緞子細帯一〇拝領

二十日、入相時分帰宅、早々登城不仕候而不叶、髪も結直不申罷登候事、

二十日、西原之御殿江御召付ニ而罷下候事、

十一日、普天間参ニ付御暇乞申上、四ツ時分帰宅いたし候、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

被仰付、今日於読谷山御殿右帯着いたし羽おとり

二ツ相勤、入相時分帰宅、早々登城不仕候而不叶、

髪も結直不申罷登候事、

二十日、西原之御殿江御召付ニ而罷下候事、

十一日、普天間参ニ付御暇乞申上、四ツ時分帰宅いたし候、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

一 御馬も拝借被成下候事、

承知不仕事

辰十月申

御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見
可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

二日勅使様御乗船二付、
上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

承知不仕事、

辰十月申

朔日、□棉五色之差物入形付二反拝領、

一御手つから形も御撰被仰付候由、誠以御慈愛

之程不淺難有次第奉存候事、

二日勅使様御乗船二付、

上様も御光越被遊候付、蒲戸も罷下御規式拝見

可仕由被仰下、馬も拝借被成下罷下候事、

一廿二日、勘定座を夜入候而罷帰、大山里之子親雲上相列、

我謝之御殿江参上仕候事、

一廿三日、勘定座を直我謝御殿江参上仕候候処、

夜之四ツ前罷帰、不気色有之、大山里之子親雲上相談

を以御暇乞申上候処、殊之外御機嫌不宜、大山

里之子親雲上共甚御差当被遊候由、翌廿四日豊本にや

罷帰奉承知、驚入申候事、

一大山江殊之外御立腹被遊、夜中早打ニ御用

有之、罷出次第しはり付可申由、筑作事江□

為被仰付由、

一加ま戸御暇乞之儀、大山を御側遣衆迄羽書

差遣候処、書面之儀不宜右通御差当被遊

候様、承知仕候事、

一かま戸勘定方勤之御断させ可申与、被思召上、

此段ハ私并悴江も(可申力)聞旨被仰下由奉承知、
驚入申候事、

一廿五日、豊本早朝我謝之御殿江参上、八ツ時分罷帰
申出候者、今日

上様被遊御帰城、かま戸も御召付ニ而罷登筈候由、

一大山里之子親雲上事、前文之通殊之外御咎日被仰付
置候処、御側衆引請を以段々御断奉申上候付、
御捨免被仰付候由、

十一月十日

一十日、かま戸事去八日比るはやり之風氣ニ相当
候処、軽き儀ニ而翌九日二者今ほと快相成候由、
豊本承居候処、今日ハ風引候哉再発いたし、
不気色有之様子、

上様御覽被遊、帰家ニ而得与養生仕候様被仰下、夜入候間
罷帰候付、見候得者少々熱有之、食事ハ進兼候へ共
氣分ハ宜、はやり之風氣与相見得候事、

一夜之五ツ過時分、外城小波津にや
御使を以安否御尋被仰下候付、私相逢菓子・
吸物馳走いたし、美御機被成下難有次第
奉存候、当分之風氣ニ而別而輕相見得候間、
煎薬相用させ候ハ、三日中二者出勤仕可申与
存候間、此段宜被達上聞度、御返詞奉申上候事、

一廿五日、豊本早朝我謝之御殿江参上、八ツ時分罷帰
申出候者、今日
上様被遊御帰城、かま戸も御召付ニ而罷登筈候由、
一大山里之子親雲上事、前文之通殊之外御咎日被仰付
置候処、御側衆引請を以段々御断奉申上候付、
御捨免被仰付候由、

一 右御側遣新里親雲上御使を以

美御機被成下、平たす一重百四十一拝領被仰下候之、
難有次第奉存候、

右三付、御返詞左之通奉申上候事、

一 美御機被成下、平たす一重拝領被仰付難有

次第奉存候、かま戸事昨晚者少々熱有之

不気色ニ相見得申候処、今日者熱も相さめ

気界も相勝、食事ハ粥など給申候、今朝豊村

親雲上相招見せ申候処、当分之風氣ニ而別而輕、

くすり共相用候ハ、早々快気仕筈候由、被申候、

此段宜被仰上度、御返詞奉申上候事、

一 十二日、御側遣与儀筑登之親雲上御使を以

美御機被成下、難有次第奉存候、私御相伴ニ而

御茶・御菓子・御吸物差上、左之通御返詞奉申上

候事、

美御機被成下難有次第奉存候、今日者昨日ハ気分

宜候得共、いまた食事相進不申候、今日之様子ニ而ハ

日増快相成申候間、明日ハ参上を以御拝申上候様

申付置候、此段ハ宜被仰上度由申上候事、

一 十三日、今日ハ気分も宜食事も相進、風氣も

余ほと相退候様相見得候付、崎山御殿□□
いたし、

上様不叶候御機嫌御座候事

御座候事

上様御座候御機嫌御座候事

御座候事

御座候事

上様御座候御機嫌御座候事

御座候事

御座候事

上様御座候御機嫌御座候事

御座候事

御座候事

上様御座候御機嫌御座候事

御座候事

上様御座候御機嫌御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

御座候事

上様此中度々美御機被成下、平□□□□

御拝申上、且

上様茂此中ハ御風氣御氣分被遊御座候様

奉承知候間、奉伺御機嫌候様申付、七ツ時分御殿江

罷出候事、

一

上様御風氣被遊御座候付、私并忤兩人

御機嫌伺奉申上候様申付置候処、弥右之趣も

奉申上候由、豊本にやる承知仕候事、

一十四日、朝罷帰候付相尋候処、夜前も得与寝

候而今日者気分も別而快候付、勘定座江罷出候処、

いまたいづれも出勤不仕候付、罷帰候由、

一十七日、前川新宅江移徙二而、かま戸御暇乞二而御帰

止宿仕居候処、

上様夜前我喜屋御殿江被遊御差越候間、只今

出殿御下御殿江差越候様、喜世村親雲上之問合有之、

一十八日、七ツ時分崎山之御殿江罷出候事、

一廿九日、幸地親方御懷御不幸二付、御暇乞二而

罷登候事、

戊辰十二月申

一九日今日忌晴候付、御機嫌伺二早々参上不仕

候而不叶候処、

上様西原番所江被遊御座候付、九ツ比□□□□□□

高嶺里之子御馬牽せ、かま戸迎ニ参り候処、前森
辺ニ而行逢候付、加籠ハ差戻御馬ニのり番所江
参上仕候処、我喜屋之御殿江御越為被遊由
承知いたし、則右御殿江参上仕候由、豊本にや
申出候、

一私・悴々御機嫌伺之儀兼々申付置
候通奉申上候由、

一うし病氣ニ付美御機被成下候御拝も
奉申上候由、豊本申出候事、

一十四日、かま戸事、去九日西原番所江
上様被遊御座候付参上仕候処、明日より御師匠
御講談相始候付、罷登聽聞可仕由被仰下、
帰宅仕候事、

一十九日、御機嫌伺ニ西原番所江参上仕候事、
一廿四日、御機嫌伺ニ西原番所江参上仕候付、
番所江相詰候様被仰下候処、今日豊見城里之子親雲上
嫡子髮撫ニ而、御暇乞ニ而罷登候由、

一鹿毛小形御馬拜領被仰付候由、難有次第
奉存候事、

一先御茶屋江参上講談被承候、豊見城
按司御始いづれも此方下やしき出會

上様遊沙原所江参上仕候由、御師匠
御講談相始候付、罷登聽聞可仕由被仰下、
帰宅仕候事、

一十九日御機嫌伺、而東由而下、是は少
為多下候候、及、所下り初上白豊見城候
御子髮撫ニ而沙原乞ニ而罷登候由、

一鹿毛小形御馬拜領被仰付候由、難有次第
奉存候事、

一先御茶屋江参上講談被承候、豊見城
按司御始いづれも此方下やしき出會

二月廿三日

一 昼休ハ銘々取寄之相談ニ而此方もこおり

方江調方申渡差遣候事、

一 茶請・あんどん・たはこ盆などハ此方差出候事、

一 明日者かま戸番所江参上仕候様被仰下由、

一 廿五日、西原番所江参上相詰居候処、廿七日朝

御帰城被遊候付、御召付ニ而罷登崎山御殿江

相詰候事、

一 正月申

一 四日、去月廿九日年参為御見廻罷帰居候処、

小波津按司加那志御不幸ニ而心喪モいたし、

今日為御機嫌伺崎山御殿江参上仕候事、

一 十六日、去四日崎山御殿江参上、何日二者御城江御□□ニ而

罷登、今日四ツ時分罷帰候処、七ツ時分二者登城仕候事、

一 廿一日表形付ニうら花染之見事成衣裳一段

拝領仕候事、

一 廿三日、うし病氣見廻ニ九ツ時分帰宅、翌廿四日

四ツ時分登城仕候事、

一 巳二月中

一 廿三日、於勘定座おとり仕組ニ付、帰宅仕候処、相済

次第崎山御殿江参上仕筈候処、当日

上様我喜屋御殿江被遊御座候間、帰宅いたし緩々

休候而、勘定座江も罷出候、あや前々被□聞由ニ而

一 二月廿三日
一 昼休ハ銘々取寄之相談ニ而此方もこおり
一 方江調方申渡差遣候事、
一 茶請・あんどん・たはこ盆などハ此方差出候事、
一 明日者かま戸番所江参上仕候様被仰下由、
一 廿五日、西原番所江参上相詰居候処、廿七日朝
一 御帰城被遊候付、御召付ニ而罷登崎山御殿江
一 相詰候事、
一 正月申
一 四日、去月廿九日年参為御見廻罷帰居候処、
一 小波津按司加那志御不幸ニ而心喪モいたし、
一 今日為御機嫌伺崎山御殿江参上仕候事、
一 十六日、去四日崎山御殿江参上、何日二者御城江御□□ニ而
一 罷登、今日四ツ時分罷帰候処、七ツ時分二者登城仕候事、
一 廿一日表形付ニうら花染之見事成衣裳一段
一 拝領仕候事、
一 廿三日、うし病氣見廻ニ九ツ時分帰宅、翌廿四日
一 四ツ時分登城仕候事、
一 巳二月中
一 廿三日、於勘定座おとり仕組ニ付、帰宅仕候処、相済
一 次第崎山御殿江参上仕筈候処、当日
一 上様我喜屋御殿江被遊御座候間、帰宅いたし緩々
一 休候而、勘定座江も罷出候、あや前々被□聞由ニ而

廿四日迄止宿いたし候事

廿五日、勘定座江罷出候事、
(引九)
但、今日□仕組之由、

巳三月申

十四日、

上様々、かま戸忌中三付、新里里之子御使を以
美御機被成下候、

一十六日、かま戸右同三付、御側遣高嶺里之子
御使を以美御機被成下、左之通被成下候事、

白胡麻一重

四月申

一九日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一最前者、明十日間切江御光越、十四日

晚御帰城被遊候間、其時分登城可仕旨
被仰下候処、猶又本文之通被仰下候事、

一今日、五ツ時分読谷山間切江被遊御光越三付、御召付二而
罷越候由、

上様々

一十六日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一十九日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿一日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿二日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

四月申

一廿三日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿四日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿五日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿六日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿七日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿八日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一廿九日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一三十日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一三十一日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一四日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一十五日、かま戸事、此ほと引入罷居、四十九日甲
相濟出勤仕させ申考候処、今日入相時分高嶺
里之子御使を以、明後十一日あふしはらい二而、
明十日読谷山間切江御光越被遊候付、
御召付被仰付候間、只今登城仕候様被仰下候間、
早速支たいたし、高嶺一同御二階御殿江参上
仕候事、

一 惣三傳し、水鏡、
長巻、及、此、沖仙、を、各、一、冊、分、り、仲村、
二、本、元、元、の、活、字、の、内、鏡、之、長、鏡、各、一、冊、分、り、
仲村、と、各、一、冊、分、り、仲村、と、各、一、冊、分、り、
仲村、と、各、一、冊、分、り、仲村、と、各、一、冊、分、り、

一 十日、今日、百、五、十、時、分、遊、所、帰、城、天、氣、あ、し、く、
御、座、候、処、何、そ、御、差、障、も、無、御、座、か、ま、戸、も、何、之、障、も、
無、之、御、召、付、二、而、登、城、仕、候、由、豊、本、に、夜、入、候、而、
御、城、を、罷、歸、申、出、安、心、い、た、し、候、

一 十一日、今日、百、五、十、時、分、遊、所、帰、城、天、氣、あ、し、く、
御、座、候、処、何、そ、御、差、障、も、無、御、座、か、ま、戸、も、何、之、障、も、
無、之、御、召、付、二、而、登、城、仕、候、由、豊、本、に、夜、入、候、而、
御、城、を、罷、歸、申、出、安、心、い、た、し、候、

一 十二日、今日、百、五、十、時、分、遊、所、帰、城、天、氣、あ、し、く、
御、座、候、処、何、そ、御、差、障、も、無、御、座、か、ま、戸、も、何、之、障、も、
無、之、御、召、付、二、而、登、城、仕、候、由、豊、本、に、夜、入、候、而、
御、城、を、罷、歸、申、出、安、心、い、た、し、候、

一 十三日、今日、百、五、十、時、分、遊、所、帰、城、天、氣、あ、し、く、
御、座、候、処、何、そ、御、差、障、も、無、御、座、か、ま、戸、も、何、之、障、も、
無、之、御、召、付、二、而、登、城、仕、候、由、豊、本、に、夜、入、候、而、
御、城、を、罷、歸、申、出、安、心、い、た、し、候、

一 十四日、今日、百、五、十、時、分、遊、所、帰、城、天、氣、あ、し、く、
御、座、候、処、何、そ、御、差、障、も、無、御、座、か、ま、戸、も、何、之、障、も、
無、之、御、召、付、二、而、登、城、仕、候、由、豊、本、に、夜、入、候、而、
御、城、を、罷、歸、申、出、安、心、い、た、し、候、

一 一十三日、今日酉過時分被遊御帰城、天氣あしく
御座候処、何そ御差障も無御座、かま戸も何之障も
無之、御召付二而登城仕候由、豊本にや夜入候而
御城を罷歸申出、安心いたし候、

一 十五日、六七日・廿一日・四十九日二付、焼香二帰宅
いたし、翌日登城いたし候事、廿四日我喜屋之御殿江御召付二而
罷越候事、

一 四日、於我謝御殿ニ黄地ニ赤むらさき青□ニ三色
翌筋島入三ツ葉布一反拝領被仰付、
難有次第奉存候事、

一 此節者差支付、しやうふ衣家内ニ而
相立不申等候間、急度相仕候可被下由、
御差図被仰下相調り候由、あや前より
豊本にや江被申聞候付、別而□有次第
奉存候事、

一 巳十二月廿六日、御側遣金城筑登之豊本にや

一 巳十二月廿六日、御側遣金城筑登之豊本にや

嘉慶十四年正月己巳
 朔日柏寺菓子一箱宛以後毎月朔日進度由、兼而
 承趣有之、今日始而到来いたし候事、
 一六日、私并女孫うし歳日祝仕候事、
 一私歳日者昨日之筈候処、うし事此程之病氣いまた
 全快者不仕候得共、格別快方ニ罷成候付、快氣中祝之
 心入ニ而医者兩人相招、私歳日も相兼相祝候事、
 一上下屋敷中又者女子孫共相招、其外高本里之子親雲上
 岡村筑登之親雲上・比嘉筑登之親雲上・次男浦崎筑登之親雲上
 相招、前出合之人数迄致馳走候事、
 一岡村筑登之親雲上嫡子うし、比嘉筑登之親雲上嫡子比嘉子相招、罷

嘉慶十四年正月己巳

正月申

朔日柏寺菓子一箱宛以後毎月朔日進度由、兼而
 承趣有之、今日始而到来いたし候事、
 一六日、私并女孫うし歳日祝仕候事、

一私歳日者昨日之筈候処、うし事此程之病氣いまた

全快者不仕候得共、格別快方ニ罷成候付、快氣中祝之

心入ニ而医者兩人相招、私歳日も相兼相祝候事、

一上下屋敷中又者女子孫共相招、其外高本里之子親雲上

岡村筑登之親雲上・比嘉筑登之親雲上・次男浦崎筑登之親雲上

被召寄被申聞候者、かま戸正月衣裳、表形付
 木綿、うら花染ニ而被成下思召ニ而、兼而調方被仰下
 候処、当日仲井真按司加那志御仕合ニ付而、御城ニ而
 はな染等之御取仕出難被仰付候間、裏ハ此方ニ而
 はな染相調縫調させ可申由ニ而、左之通拝領被仰付
 難有次第奉存候、
 木綿布ニふとう色五色之さし物入形付
 布一反

嘉慶十四年己巳

正月申

一朔日、柏寺菓子一箱宛以後毎月朔日進度由、兼而

承趣有之、今日始而到来いたし候事、

一六日、私并女孫うし歳日祝仕候事、

一私歳日者昨日之筈候処、うし事此程之病氣いまた

全快者不仕候得共、格別快方ニ罷成候付、快氣中祝之

心入ニ而医者兩人相招、私歳日も相兼相祝候事、

一上下屋敷中又者女子孫共相招、其外高本里之子親雲上

岡村筑登之親雲上・比嘉筑登之親雲上・次男浦崎筑登之親雲上

相招、前出合之人数迄致馳走候事、

一岡村筑登之親雲上嫡子うし、比嘉筑登之親雲上嫡子比嘉子相招、罷

和扇をさかして後継をへつち務りし事
いと誠又ももつて一休致馳走仕奉

一方より到来物有之、別さつ二相記候事、

一六日共朝原親方御見舞被下候付、三献・御菓子・御茶
沙地を仕仕奉

一七日親方より遠志唐人・勸方を七ツ時分泊村江差越
仕奉

一十日孫山戸・唐名浦崎親方・名乗善興寺石親
座主江御頼方ニ付、知花子両所江差遣候処、翌十一日
両所懸御目御頼申上候段、首尾承候事、

一浦崎親方より十七日より御城江被罷登答候間、登懸
直ニ此方江御出被相渡答候、若八ツ時分迄不被罷出候ハ、
御宅江可罷出由申聞候由、

一善興寺も来ル十七日ニ受取ニ可罷下由、御約束仕置
候事、

一十三日、うし病氣之儀長々順快之体ニも不相見得候付、
今朝渡嘉敷子善興寺江差遣占御頼申上候付、左之通
申来候、

一御籤者宜敷候由 一星者あしく候由
一当帰者宜敷候由

一右通候間、向々へ立願一七日致日参可然由

一同日、高原親方歳役始而御見廻被下候付、三献・
茶菓子御馳走仕候事、

一同日、高原親方歳役始而御見廻被下候付、三献・
茶菓子御馳走仕候事、

出候付、和扇子巻本ツ、琉焼水入一ツ相讓候事、

一いも祢又者手引一之休致馳走候事、

一六日、与那原親方御見舞被下候付、三献・御菓子・御茶
御馳走仕候事、

一七日、親方事漂着唐人方勤方ニ付、七ツ時分泊村江差越
候事、

一十日、孫山戸、唐名浦崎親方、名乗善興寺石親
座主江御頼方ニ付、知花子両所江差遣候処、翌十一日
両所懸御目御頼申上候段、首尾承候事、

一浦崎親方者、来ル十七日より御城江被罷登答候間、登懸
直ニ此方江御出被相渡答候、若八ツ時分迄不被罷出候ハ、
御宅江可罷出由申聞候由、

一善興寺も来ル十七日ニ受取ニ可罷下由、御約束仕置
候事、

一十三日、うし病氣之儀長々順快之体ニも不相見得候付、
今朝渡嘉敷子善興寺江差遣占御頼申上候付、左之通
申来候、

一御籤者宜敷候由 一星者あしく候由
一当帰者宜敷候由

一右通候間、向々へ立願一七日致日参可然由

一同日、高原親方歳役始而御見廻被下候付、三献・
茶菓子御馳走仕候事、

一同日、高原親方歳役始而御見廻被下候付、三献・
茶菓子御馳走仕候事、

十六日吉日... 平愈仕候... 御立願仕候事

一 觀音堂・弁財天堂・空虎藏者、先日前川親雲上妻罷通立願仕置候付、今日より日參相始候事、

一 そのへやん御嶽・

一 私・前川親方妻・喜名子・宜寿次龜・孫次郎・樽相列罷通候事、

一 十七日、孫山戸唐名浦崎親方、名乘善興寺石親座主江兼而御頼仕置候付、知花子差遣取來候事、

一 右三付御礼物左之通、

一 扇子一箱 三本人完 一白麻十帖完 一散砂糖一重完

右知花子を以兩衆御礼申上、致進覽候事

○向得行 子張問行 子曰言忠信行篤敬雖蠻貊之邦行矣言不忠信行不篤敬雖州里行乎哉

字彙云身之所行謂之行李弟為百行之本

向得達 子張問士何如斯可謂之達矣 子曰夫達也者質直而好義察言而觀色慮以下人在邦必達 在家必達

浦崎親方

浦崎親方

○朝房 フサ 親武 タケ 善興寺石親座主

野嵩按司加那志様より女御使を以うし美御機被成下
候付、千餅御菓子・御茶・御吸物一ツ御馳走仕候事、

二月廿一日

一 久高島之者大島江罷渡居候内、唐船十二艘漂着有之、
代官方より御国許江御急用被申上儀共有之、右久高
島之者被相頼御国許江被差遣、御国元より御返答
被相渡、大島江罷帰首尾能届上被差免候而、当月四日帰着、
右便より、御使者衆始末々之者共より宿元江も書状共持下
相届候由、

一 山川・種子島・屋久島江も唐船二・三艘完、漂着有之由、
一 右船々本船堅固有之、彼元より直ニ帰帆仕筈之由、
一 右船之内巻艘ハ一人一人乗漂着有之、右船者大島ニ而焼捨、
会船ニ乗合帰帆仕筈之由、

一 十日

上様・野嵩按司加那志様よりうし美御機被成下、
按司加那志様より左之通被成下、難有次第奉存候事、
一 一重 一奈良漬瓜二 一重
但、御菓子・御吸物一ツ御馳走いたし、私忝兩人
ニ而御返詞申上候事、
一 廿二日、地頭代西江親雲上、昨日より中氣相煩候由ニ而、子小浜

○朝房 フサ 朝武 タケ

一 廿八日、 善興寺石親座主

野嵩按司加那志様より女御使を以うし美御機被成下
候付、千餅御菓子・御茶・御吸物一ツ御馳走仕候事、

二月廿一日

一 久高島之者大島江罷渡居候内、唐船十二艘漂着有之、
代官方より御国許江御急用被申上儀共有之、右久高
島之者被相頼御国許江被差遣、御国元より御返答
被相渡、大島江罷帰首尾能届上被差免候而、当月四日帰着、
右便より、御使者衆始末々之者共より宿元江も書状共持下
相届候由、

一 山川・種子島・屋久島江も唐船二・三艘完、漂着有之由、
一 右船々本船堅固有之、彼元より直ニ帰帆仕筈之由、
一 右船之内巻艘ハ一人一人乗漂着有之、右船者大島ニ而焼捨、
会船ニ乗合帰帆仕筈之由、

一 十日

上様・野嵩按司加那志様よりうし美御機被成下、
按司加那志様より左之通被成下、難有次第奉存候事、
一 一重 一奈良漬瓜二 一重
但、御菓子・御吸物一ツ御馳走いたし、私忝兩人
ニ而御返詞申上候事、
一 廿二日、地頭代西江親雲上、昨日より中氣相煩候由ニ而、子小浜

九一ツ相讓候事、

但、生る湯又者さあ湯ニ而相用候様、申付候事、

一親類玉城筑登之与申者、高里筑登之親雲上之煎葉五袋

申請罷歸候付、乳之儀功能ニ相見得候、中風、言語

不通之養生相教候事、

一廿三日、佐久真里上之子親雲上之屋敷入用ニも可相成と、十人并当

一荷家迄結構ニ相調相讓候、此程下屋敷ニ而客来之

時者、此方より諸道具取寄不申候而不叶、別而不自由成事

候処、此弁当三而八彼方三而之入用無不足、佐久真心入之程忝喜悅

存候事、

一廿四日、宜野湾王子様御懷八十五御□書御結願ニ付、

左之通御料理被下候事、

一赤飯御料理重一組

一赤むしかう御菓子一重

一千餅・住吉餅一重

右通被下候付、御酒代玉子五十差上候事、

一廿五日、返上物宰領龜川里之子親雲上乘船入津、

一廿七日、冊封御首尾能被為濟候為御祝儀、御奉行

役々衆御招請、

附、御先例之通於御書院・南風之御殿御料理御後段迄

被召上、於西之御殿躍御見物御座候由、

一 大御所御膳所より御膳所へ申付候事、御膳所へ
一 御膳所御料理重一組
一 赤むしかう御菓子一重
一 千餅・住吉餅一重
一 御酒代玉子五十差上候事
一 返上物宰領龜川里之子親雲上乘船入津
一 冊封御首尾能被為濟候為御祝儀、御奉行役々衆御招請

一 廿九日、私事当月迄廿七ヶ月慎内ニ而候処、去廿一日より清明

之節ニ而、去々年去年之通宜寿次御墓所参拝仕候事、

一 宜寿次御墓者、例之通かすてら之御菓子・御茶湯

差上御焼香仕候事、

一 此方御墓も適罷越候付、御茶湯上御焼香仕候事、

一 惣慶御墓も御焼香仕候事、

三月中

一 五日、女孫うし事、去年五六月比より病氣差発、此程養生

方看病方昼夜入念手を尽相働候へ共不相叶、今日入相時分絶命

いたし嘆入候、右一件筆を取書記ニ不忍、別さつに相記させ候故

略入、

一 廿一日、横目有村仁右衛門殿・萩野半左衛門殿乗船入津、

但、右乗船之儀大島江汐懸いたし候処、与風南風ニ而嵐立、

横目衆兩人乗船ニ乗被移候処、本船者碇すり切沖江

走出行衛不相知由、

一 廿二日、孔子廟御参拝被遊候事、

四月中

一 九日、悴親方申聞候者、兩親事最早歳罷寄ニ付而者、

保養方大切之事ニ而、平日体式等氣ニ叶候様入念不申候而

不叶事候処、此程供之者代合ニ而相勤させ候付、少々取馴候

時分者交代いたし候付、塩梅彼は無調法有之何共安心難仕、

且今般無存込御賞伴過分致頂戴候付而者、家中続方ニも

一 廿九日、私事当月迄廿七ヶ月慎内ニ而候処、去廿一日より清明

之節ニ而、去々年去年之通宜寿次御墓所参拝仕候事、

一 宜寿次御墓者、例之通かすてら之御菓子・御茶湯

差上御焼香仕候事、

一 此方御墓も適罷越候付、御茶湯上御焼香仕候事、

一 惣慶御墓も御焼香仕候事、

三月中

一 五日、女孫うし事、去年五六月比より病氣差発、此程養生

方看病方昼夜入念手を尽相働候へ共不相叶、今日入相時分絶命

いたし嘆入候、右一件筆を取書記ニ不忍、別さつに相記させ候故

略入、

一 廿一日、横目有村仁右衛門殿・萩野半左衛門殿乗船入津、

但、右乗船之儀大島江汐懸いたし候処、与風南風ニ而嵐立、

横目衆兩人乗船ニ乗被移候処、本船者碇すり切沖江

走出行衛不相知由、

一 廿二日、孔子廟御参拝被遊候事、

四月中

一 九日、悴親方申聞候者、兩親事最早歳罷寄ニ付而者、

保養方大切之事ニ而、平日体式等氣ニ叶候様入念不申候而

不叶事候処、此程供之者代合ニ而相勤させ候付、少々取馴候

時分者交代いたし候付、塩梅彼は無調法有之何共安心難仕、

且今般無存込御賞伴過分致頂戴候付而者、家中続方ニも

何ぞ差支不申候間、來月朔日ハ庖丁勝手之者兩人相抱、
 扶持方三石相渡昼夜不明様一人完相詰させ、毎日之休式
 兩親氣三叶候様随分入念、致忠養延命長寿相願申候間、
 其通申付度由承候付、私申候者、所存之程忝存候へ共、当分
 兩親孝養方も何そ不足無之、且近年中旅之御奉公も
 有之、物入差見得候付而者、何角儉約を用不申候而者不叶境節
 候間、差止候様も相考候処、孝親保養方之儀者為子者
 第一之筋、適孝心厚心入を以承事候へ者難押止、□悦
 不斜所存之通致同意候事、

一四日、上原御殿より取寄候本草七冊之内、五さつハ持たせ差上、
 桑松之部式さつ者此方江止置候事、

一朔日比より、論語序より誦読いたし候事、

一五日より、貞親政要序より見候事、

一十二日、宜寿次親方・上与那原親方相招、親方在番之時
 与力佐久真里之子親雲上江相片付、又者上与那原里之子親雲上・
 前川里之子親雲上・糸数親方与力願之儀、相談いたし候事、

但、佐久真里之子親雲上・上与那原里之子親雲上も罷出候事、

一十三日、栗国子相招、真鶴・三ら養生方相頼、則日より
 煎薬相用候事、

一十七日、物見之北表うすく木を、三尺計之毒蛇取候事、

一十八日、伊江島地頭代言上相濟候事、

一廿三日、百ヶ日迄毎日茶湯燈明とふし、菓子・茶請杯相備候相談、

いし候事、

一 下知役檢者より前川里之子親雲上相招、所存之趣承候事、

一 廿三日、於首里大道

上様御落馬被遊候由承知仕、驚入御様体内々相伺

候処、何ぞ強御痛所者無御座由、奉承知候事、

一 廿五日、養子川上七九郎殿の書状・音物到来二付、喜屋武

親方江御相談之儀、比嘉筑登之親雲上江相頼候趣有之候処、今日

喜屋武親方懸御目御相談申上候処、左之通承候事、

一 七九郎殿のハ、御養父格別成御取合候間、不相替

致取合度由申来候付、相断候様二者いたしかたく候間、

彼之方申来候通、音物者相輕メ取合不仕候而不叶由、

一 桃原親方も私共同前到来有之候付、音物者

官香・練蕉布抔差遣取合被致由、被申出由、

五月申

一 幸地親方那覇詰二付、安否尋何歟差遣候事、

一 三日、謝名奥間大親御元祖、此節の御棚御仕立御靈供

差出儀共、昨日前川親雲上妻・富盛祖母奥平殿内江

罷出、伊江按司御伯祖母江御相談申上候処、弥此節の御棚

御仕立、御靈供差上候筋御相談相決、罷帰候処、右様

之儀跡々無之候を、此節の相始、尤永々最通不申候間、

不叶事候へ者、輕々敷取計得候而者如何敷儀二而、宜寿次

親方・上与那原親方相招相談いたし候処、謝名奥間

親方上与那原親方相招相談いたし候事、

大親者

察度王御代、國頭奧間大親者

尚円様御代、御時代、相考候へ者、謝名奥間大親者

遙三御先之事、而候得共、謝名奥間大親御始祖者

國頭間切御素生、而候哉、然々相分不申候間、得与相札

御相談申上度候間、此節迄者此中之通執行、而ハ何様

候哉、上与那原里之子親雲上奥平江差遣候事、

一入相時分、上与那原罷帰承候者、前文之通此方相談之趣

逐一申上候処、此儀与風御考を以昨日前川親雲上妻

富盛祖母江為被仰聞儀、而無之、此前、段々御思慮

被成候処、是非共謝名奥間大親御元祖ハ御信仰無之

候而不叶儀与御決、此内、右兩人御召寄御相談被成候

御合候処、仕合昨日右兩人罷出候付、則此程御考之通

為被仰聞事候、謝名奥間大親御元祖者何共糺方

不及、國頭間切御素生之段者別条無之事候間、一日も早く

御棚御仕立御信仰仕候方、一門中之為筋与被思召

候間、猶子不致一刻も早々相決其手当仕度儀与被思召

由、事々敷被仰聞候由、

附、当分御棚御安置仕座敷無之由候へ者、富盛

祖母御信仰仕候御神者、兼而御相談之通

急度御殿江御招請被成御考候間、其内者何つ方江も

不差障場所江かり二奉居可然被思召由、

大親者
察度王御代、國頭奥間大親者
尚円様御代二而、御時代、相考候へ者、謝名奥間大親者
遙三御先之事、而候得共、謝名奥間大親御始祖者
國頭間切御素生、而候哉、然々相分不申候間、得与相札
御相談申上度候間、此節迄者此中之通執行、而ハ何様
候哉、上与那原里之子親雲上奥平江差遣候事、
一入相時分、上与那原罷帰承候者、前文之通此方相談之趣
逐一申上候処、此儀与風御考を以昨日前川親雲上妻
富盛祖母江為被仰聞儀、而無之、此前、段々御思慮
被成候処、是非共謝名奥間大親御元祖ハ御信仰無之
候而不叶儀与御決、此内、右兩人御召寄御相談被成候
御合候処、仕合昨日右兩人罷出候付、則此程御考之通
為被仰聞事候、謝名奥間大親御元祖者何共糺方
不及、國頭間切御素生之段者別条無之事候間、一日も早く
御棚御仕立御信仰仕候方、一門中之為筋与被思召
候間、猶子不致一刻も早々相決其手当仕度儀与被思召
由、事々敷被仰聞候由、
附、当分御棚御安置仕座敷無之由候へ者、富盛
祖母御信仰仕候御神者、兼而御相談之通
急度御殿江御招請被成御考候間、其内者何つ方江も
不差障場所江かり二奉居可然被思召由、

一日昨日前文之通被仰聞候付、宜寿次親方
上共物原親方相招致相談候処、適伊江按司
御伯祖母此程より御思慮之上被仰聞、尤早々御信仰
仕候方、一門中為筋ニ茂罷成候由、段々分而被仰聞
候付而者、御同意仕候方可然与相決、上与那原里之子親雲上
差遣、昨日被仰聞儀、今日兄弟中相揃相談
仕候処、愈御同意奉存候間、今度御棚御仕立、
当月御祭之日より御信仰仕候筋申上候付、別而
御喜悅被思召由、御返詞御座候事、

一前川江上与那原里之子親雲上、富盛・内間江渡嘉敷
を以右之趣申達候処、何連も安堵致大慶候由、
返詞承候事、

通御棚御事

一御棚御仕立、其外御膳・御道具仕立方、又者
御神御信仰日記等、上与那原里之子親雲上・渡嘉敷子
兩人江懸り申付候間、入念可相勤旨、何連も相談
之上申付候事、

一四日、屋敷中山江相立候儀方之札、円覚寺月湛
長老江十枚、陰廊長老四拾枚、伊集里之子差遣
致御頼候事、

致御頼候事

一例年之通陰廊長老江致御頼候筋申付、
伊集差遣候処、陰廊長老御他出之折ニ而、月湛
長老御頼いたし候処、多分之札数ニ而長老御一人ニ而八

一四日、昨日前文之通被仰聞候付、宜寿次親方

上与那原親方相招致相談候処、適伊江按司

御伯祖母此程より御思慮之上被仰聞、尤早々御信仰

仕候方、一門中為筋ニ茂罷成候由、段々分而被仰聞

候付而者、御同意仕候方可然与相決、上与那原里之子親雲上

差遣、昨日被仰聞儀、今日兄弟中相揃相談

仕候処、愈御同意奉存候間、今度御棚御仕立、

当月御祭之日より御信仰仕候筋申上候付、別而

御喜悅被思召由、御返詞御座候事、

一前川江上与那原里之子親雲上、富盛・内間江渡嘉敷

を以右之趣申達候処、何連も安堵致大慶候由、

返詞承候事、

一御棚御仕立、其外御膳・御道具仕立方、又者

御神御信仰日記等、上与那原里之子親雲上・渡嘉敷子

兩人江懸り申付候間、入念可相勤旨、何連も相談

之上申付候事、

一四日、屋敷中山江相立候儀方之札、円覚寺月湛

長老江十枚、陰廊長老四拾枚、伊集里之子差遣

致御頼候事、

一例年之通陰廊長老江致御頼候筋申付、

伊集差遣候処、陰廊長老御他出之折ニ而、月湛

長老御頼いたし候処、多分之札数ニ而長老御一人ニ而八

調方不相達、乍然私住居所近方江立候札十枚ハ
長老直ニ御書調被成候間、余者別ニ可相頼由被仰聞、
十枚者御^{取力}被成候事

一 陰廊長老御留守ニ而、御頼之趣小僧江申置、
木札三十四枚相渡由、

一 右ニ付、例之通御兩所江煎茶一包完・散砂糖
一重完致進覽候事、

但、陰廊長老江者例之通庫理ハ、月湛長老江者
私方より相調もたせ上候事、

一月湛長老江者先日葉ほたん一鉢被下、且是札之儀
私住居座近方ニ立候札者直ニ御書調被成候由、段々
被入御念次第共有之候付、上与那原より到来之

黄金花一鉢もたせ上候処、別而銘敷御楽ニ
被成候由、厚御挨拶為有之由

一 十二日、去年之夏自物砂糖千百斤差登相扨候付、相応ニ余計出来
候付、女子五人江五拾貫文ツ、相讓候事、

一 十三日、御先例之通 冊封御首尾能被為濟候御札、
上様御飯屋江四ツ時分御光越、酉時分被遊御帰城
候事、

一 御料理御間之物段々被召上、相撲御見物
被遊候由、

一 御進覽物
一 相撲人数江青銅

一 十八日、慶世村親雲上親方江用事ニ付而被罷出候付、一刻緩与

調方不相達、乍然私住居所近方江立候札十枚ハ
長老直ニ御書調被成候間、余者別ニ可相頼由被仰聞、
十枚者御^{取力}被成候事

一 陰廊長老御留守ニ而、御頼之趣小僧江申置、
木札三十四枚相渡由、

一 右ニ付、例之通御兩所江煎茶一包完・散砂糖
一重完致進覽候事、

但、陰廊長老江者例之通庫理ハ、月湛長老江者
私方より相調もたせ上候事、

一月湛長老江者先日葉ほたん一鉢被下、且是札之儀
私住居座近方ニ立候札者直ニ御書調被成候由、段々
被入御念次第共有之候付、上与那原より到来之

黄金花一鉢もたせ上候処、別而銘敷御楽ニ
被成候由、厚御挨拶為有之由

一 十二日、去年之夏自物砂糖千百斤差登相扨候付、相応ニ余計出来
候付、女子五人江五拾貫文ツ、相讓候事、

一 十三日、御先例之通 冊封御首尾能被為濟候御札、
上様御飯屋江四ツ時分御光越、酉時分被遊御帰城
候事、

一 御料理御間之物段々被召上、相撲御見物
被遊候由、

一 御進覽物
一 相撲人数江青銅

一 十八日、慶世村親雲上親方江用事ニ付而被罷出候付、一刻緩与

座江申入、左之通申談候事、

一先比見廻ニ被罷出候節、

御筆頂戴仕度願居候段致沙汰候付、蒲戸ニ付而

奉願御都合宜由被申聞候付、早速蒲戸ニ而

御序次第願之趣達 上聞候様申付候付、

度々相尋候処、御序無之いまた不奉申上由

相答、右体ニ而者無期日延引ニ及可申与、世話ニ存申候、

何様有之可然哉与申候付、此前御序有之、願之趣

達 上聞候処、先寄御手習共被遊、御深筆

被成下候由被仰下候段奉承知候付、何分ニも成合

候様、御取計給度由相頼候事

一十九日、孫次郎二十四孝読終候付、例之通祝候而

饅頭取寄 御霊前江差上、宜寿次・上与那原江も

差遣、家中人数賞味いたし候事、

一今日より三字経読書相始候而、私読せ候事、

一三拾貫文ニ而まんてう買入候処、始而一さつ読終、

私も嬉しく候付、拾貫文者私差出候事、

一廿四日、夜前慶良間島江火立有之、具志より受候而

御首尾申出候由、

一慶良間島々今日御首尾為申出由、

一慶良間しま南表ニ大船相見得候由、

一同日、上与那原次郎・孫かま戸、謡正日ニ而一ノ扇子一本ツ、相

譲候事、

一同日、吉日ニ而親方乳母致帰郷候事、

座江申入、左之通申談候事、

一先比見廻ニ被罷出候節、

御筆頂戴仕度願居候段致沙汰候付、蒲戸ニ付而

奉願御都合宜由被申聞候付、早速蒲戸ニ而

御序次第願之趣達 上聞候様申付候付、

度々相尋候処、御序無之いまた不奉申上由

相答、右体ニ而者無期日延引ニ及可申与、世話ニ存申候、

何様有之可然哉与申候付、此前御序有之、願之趣

達 上聞候処、先寄御手習共被遊、御深筆

被成下候由被仰下候段奉承知候付、何分ニも成合

候様、御取計給度由相頼候事

一十九日、孫次郎二十四孝読終候付、例之通祝候而

饅頭取寄 御霊前江差上、宜寿次・上与那原江も

差遣、家中人数賞味いたし候事、

一今日より三字経読書相始候而、私読せ候事、

一三拾貫文ニ而まんてう買入候処、始而一さつ読終、

私も嬉しく候付、拾貫文者私差出候事、

一廿四日、夜前慶良間島江火立有之、具志より受候而

御首尾申出候由、

一慶良間島々今日御首尾為申出由、

一慶良間しま南表ニ大船相見得候由、

一同日、上与那原次郎・孫かま戸、謡正日ニ而一ノ扇子一本ツ、相

譲候事、

一同日、吉日ニ而親方乳母致帰郷候事、

一 形付芋物衣裳一枚并まんと、三拾貫文ニ而買入くり候事、
 但、式拾貫文ハ室真つるる□□
 一 此方家内上下屋敷中女子五人・豊見城むた
 しゃや其外、此方罷出候付、二才共々別さつ之通銘々
 品物被給候事、
 一 はあ前女子兩人・男孫四人・女孫一人、昨日迎ニ
 罷出候付、夜飯共致馳走、且右者共々小豆・玉子
 十五私夫婦江到来ニ付、銘々刻多葉粉一折宛
 くり候事
 但、親方夫婦江も右通到来ニ付、品物共くり候由、
 一 八ツ時分打立候付、供之者下女共平良ふな迄
 見送いたし候事、
 一 廿五日、此間、屋嘉筑登之下屋しきニ而懸物表具相調候付、左之
 通くり候事、
 一 黒砂糖一重 一 多葉粉五把
 六月 中

一 形付芋物衣裳一枚并まんと、三拾貫文ニ而買入くり候事、
 但、式拾貫文ハ室真つるる□□
 一 此方家内上下屋敷中女子五人・豊見城むた
 しゃや其外、此方罷出候付、二才共々別さつ之通銘々
 品物被給候事、
 一 はあ前女子兩人・男孫四人・女孫一人、昨日迎ニ
 罷出候付、夜飯共致馳走、且右者共々小豆・玉子
 十五私夫婦江到来ニ付、銘々刻多葉粉一折宛
 くり候事
 但、親方夫婦江も右通到来ニ付、品物共くり候由、
 一 八ツ時分打立候付、供之者下女共平良ふな迄
 見送いたし候事、
 一 廿五日、此間、屋嘉筑登之下屋しきニ而懸物表具相調候付、左之
 通くり候事、
 一 黒砂糖一重 一 多葉粉五把
 六月 中

十日、八ツ頭時分ニ相成候哉、本座ニ鳥入座之西角江つくはへ候而鳴候付、内田にや見付障子立廻取可申与仕候内、南表江飛去候由申出候付、女共驚入方々占いたし候処、早々浜卸いたし候様申来、渡嘉敷子を以実応長老江も占御頼いたし候付、籤くき候処、親方夫婦樽□□運気弱候間、御願共いたし浜卸いたし候様申来、何れも申談候処、鳥之様子も承候へ者、山しき別条無之、右様之鳥座ニ入申儀者不思議之至候間、愈浜卸不致候而不叶由相決候付、彼是其手当申付、夜之五ツ時分与那原江罷下、翌十一日夜之四ツ時分罷歸候事、一家中人数以下物中其外、宜寿次親方妹むたしや。

一二日、勝連御殿真加戸此程長々召遣今日罷歸候付、銭貳拾貫文相讓候事、

二三日、こんへやん調方、勝連按司御叔母并御室江致御頼候付、左之通持し差上候事、

一縮手掛一筋

一多葉粉一斤

但、式行御叔母江

一縮手掛一筋

一散砂糖一重八寸

但、式行御室江

十日、八ツ頭時分ニ相成候哉、本座ニ鳥入座之西角江つく

はへ候而鳴候付、内田にや見付障子立廻取可申与仕候内、

南表江飛去候由申出候付、女共驚入方々占いたし候処、

早々浜卸いたし候様申来、渡嘉敷子を以実応長老

江も占御頼いたし候付、籤くき候処、親方夫婦樽□□

運気弱候間、御願共いたし浜卸いたし候様申来、何れも

申談候処、鳥之様子も承候へ者、山しき別条無之、右様

之鳥座ニ入申儀者不思議之至候間、愈浜卸不致候而不叶由

相決候付、彼是其手当申付、夜之五ツ時分与那原江

罷下、翌十一日夜之四ツ時分罷歸候事、

一家中人数以下物中其外、宜寿次親方妹むたしや。

上原御殿真加戸も相烈罷下候事、

十一日、上与原地頭所見物ニいつれも罷越、村之後鳥嶺ニ座構いたし相慰、惣中昼飯ハ上与原原馳走有之候事、

同日、安否御尋として饒波按司加那志・越来御殿よりまんと一葎具器宛、内間・富盛・前川・上原御殿・勝連御殿右同一ツ宛被下候事、

一右之外、宿主西平筑登之・同山内筑登之・座敷筑登之より段々到来物有之候処、別さつニ相記候故略ス、

一宿主兩人・座敷筑登之・識名里之子親雲上江品物進候処、是又右同断、

一十二日、うし百ヶ日相弔、諸事四十九日之通申付候事、

同日、上与原村中私并親方江玉子三拾甲宛到来候、

但、昨日進申答候処、色々取紛今日進候由断承候事、

一十四日、謝恩船入津、

一久米島十二日出帆、十三日朝慶良間島汝懸、今日那霸川入津、

一才府真壁里之子親雲上・大筆者浦崎筑登之親雲上・脇筆者仲本里之子親雲上、

一御返船官人渡口里之子親雲上・脇筆者池原筑登之親雲上乘合

一 十六日、今帰仁王子・知念親方・松島親方御乗船出帆、
 一 十七日、伊江島地頭代当役被仰付候為礼罷登、塩豚
 半疋到来有之、ふた位宜敷相見得候付、御初献上仕度
 奉存、豊本にやを以慶世村親雲上相談させ候処、弥
 献上仕可然由返答有之、早速差上申答候処、此内田舎江
 被遊御光越候由承知仕、差扣候事、
 一 十九日、夜前我謝御殿江被遊御帰殿候由、承知□□
 渡嘉敷子を以御中門之真南風あんしたれ御取合相伺
 御機嫌、乍恐御初献上仕候段申上候処、
 上様者我謝御殿江被遊御座候付、
 野高按司加那志様江右之趣奉申上候処、奉伺御機嫌、塩豚
 献上仕御喜悅被思召上候段、御返詞被成下候事、
 一 渡嘉敷子御近習詰座江被召呼、松風之御菓子・
 御茶被成下候由、
 一 塩ふた切つめ式拾式斤程、進物台ニ棕栢之葉敷、
 上も右葉ニ而おそひ御辻おそひ候事、
 一 当日、我謝御殿江被遊御座候付、彼御殿江参上
 差上候方可宜哉、渡嘉敷子慶世村江罷出差図
 を得候処、彼ノ御殿ハ御勝手狭有之差支候間、
 御中門之御取次差上候方可然由被申、本文之通、
 一 塩豚九斤御残之由ニ而、渡嘉敷を以慶世村親雲上
 相進候事、

一 十六日、今帰仁王子・知念親方・松島親方御乗船出帆
 一 十七日、伊江島地頭代当役被仰付候為礼罷登、塩豚
 半疋到来有之、ふた位宜敷相見得候付、御初献上仕度
 奉存、豊本にやを以慶世村親雲上相談させ候処、弥
 献上仕可然由返答有之、早速差上申答候処、此内田舎江
 被遊御光越候由承知仕、差扣候事、
 一 十九日、夜前我謝御殿江被遊御帰殿候由、承知□□
 渡嘉敷子を以御中門之真南風あんしたれ御取合相伺
 御機嫌、乍恐御初献上仕候段申上候処、
 上様者我謝御殿江被遊御座候付、
 野高按司加那志様江右之趣奉申上候処、奉伺御機嫌、塩豚
 献上仕御喜悅被思召上候段、御返詞被成下候事、
 一 渡嘉敷子御近習詰座江被召呼、松風之御菓子・
 御茶被成下候由、
 一 塩ふた切つめ式拾式斤程、進物台ニ棕栢之葉敷、
 上も右葉ニ而おそひ御辻おそひ候事、
 一 当日、我謝御殿江被遊御座候付、彼御殿江参上
 差上候方可宜哉、渡嘉敷子慶世村江罷出差図
 を得候処、彼ノ御殿ハ御勝手狭有之差支候間、
 御中門之御取次差上候方可然由被申、本文之通、
 一 塩豚九斤御残之由ニ而、渡嘉敷を以慶世村親雲上
 相進候事、

一夜前

上様我謝御殿江被遊御帰殿候由承知仕、蒲戸も御機嫌伺ニ罷越候処、八ツ過時分供罷帰、いまた御帰殿不被遊、蒲戸も罷帰直ニ登、城仕候段、承候事、

一去年差上候斤高三拾斤与私日記相見得、渡嘉敷子日記ニ者式拾式斤与相記府合不致、不審ニ存候処、此節半正程切つめいたし候得者、式拾式斤程有之候付而者、三拾斤者いまだ切つめ不致内之斤高三而、献上いたし候斤高者渡嘉敷子日記之通式拾式斤程ニ而可有之与存候事、

一夜前

上様我謝御殿江被遊御帰殿候由承知仕、蒲戸も御機嫌伺ニ罷越候処、八ツ過時分供罷帰、いまた御帰殿不被遊、蒲戸も罷帰直ニ登、城仕候段、承候事、

一去年差上候斤高三拾斤与私日記相見得、渡嘉敷子日記ニ者式拾式斤与相記府合不致、不審ニ存候処、此節半正程切つめいたし候得者、式拾式斤程有之候付而者、三拾斤者いまだ切つめ不致内之斤高三而、献上いたし候斤高者渡嘉敷子日記之通式拾式斤程ニ而可有之与存候事、

一廿五日、今帰仁王子御乗船出帆被成候事、
 但、順風不相続、廿九日二者御乗戻被成候事、
 一廿九日、先比月湛長老葉牡丹一鉢御遣被成、此程永々召置相詠、最早
 相すり候付返進いたし、御礼之心入三而左之通進覽いたし候事、
 一半山茶一包 一桔餅十五 一氷砂糖壹斤半程
 七月申 一平山茶一包 一桔餅十五 一氷砂糖壹斤半程
 一朔日、佐久真里之子親雲上内儀事、此程之病氣いまた、全快無之、
 根氣不足二相見得、能々養生方入念候様申付、左之通差遣候事、
 一よしの葛一包 三合程
 一二日、錢七拾貫文上原御殿真錢仁江紺地布一反買入代相讓候、
 一六日、宜寿次本座江かかる飛入候付、郭陰長老江占御頼いたし候
 処、親方・室・嫡子龜運氣弱、浜卸いたし候様有之、小那覇江差
 越候付、左之通差遣候事、
 但、私親方兩人二而錢五拾貫文ツ、
 一十五日、夜之九ツ時分上原按司をなちやら次男
 平産いたし、親子共氣分宜候段申来、何れも大慶
 之至存候事、
 但、翌十六日私之通錢三拾貫文、室右同右五貫文、
 一同日、此程長々早抜いたし世上驚入候処、今夜八ツ時分
 大嵐大雨ふり出、翌十六日同中ふり候事、

- 一廿五日、今帰仁王子御乗船出帆被成候事、
- 但、順風不相続、廿九日二者御乗戻被成候事、
- 一廿九日、先比月湛長老葉牡丹一鉢御遣被成、此程永々召置相詠、最早相すり候付返進いたし、御礼之心入三而左之通進覽いたし候事、
- 一半山茶一包 一桔餅十五 一氷砂糖壹斤半程
- 七月申 一平山茶一包 一桔餅十五 一氷砂糖壹斤半程
- 一朔日、佐久真里之子親雲上内儀事、此程之病氣いまた、全快無之、根氣不足二相見得、能々養生方入念候様申付、左之通差遣候事、
- 一よしの葛一包 三合程
- 一二日、錢七拾貫文上原御殿真錢仁江紺地布一反買入代相讓候、
- 一六日、宜寿次本座江かかる飛入候付、郭陰長老江占御頼いたし候処、親方・室・嫡子龜運氣弱、浜卸いたし候様有之、小那覇江差越候付、左之通差遣候事、
- 但、私親方兩人二而錢五拾貫文ツ、
- 一十五日、夜之九ツ時分上原按司をなちやら次男平産いたし、親子共氣分宜候段申来、何れも大慶之至存候事、
- 但、翌十六日私之通錢三拾貫文、室右同右五貫文、
- 一同日、此程長々早抜いたし世上驚入候処、今夜八ツ時分大嵐大雨ふり出、翌十六日同中ふり候事、

十七日、諸山親雲上次男松金五歳成者罷出候付、左之通相讓候、一家鳩式羽 私と 一和扇子一本 一揚木差一 親方と

同日、平らノ根孫かな・片ノ花宮城ノ孫松、今日識名御殿江御用有之、豊本にや江髪結相頼罷出候付、召寄和扇子一本ツ、くり候、

一同日上原按司御次男川卸ニ付、祝候而昆布一折差遣候事、

但、晩料理□有之候、

一廿三日、今帰仁王子御乗船、大和船十艘致出帆候事、

一廿四日、次男具志堅にや事、此方奉公相願□而、十七日罷登居候処、いまた幼少ニ而物馴も無之故、定式人数ニ難召加、且奉公人多人数罷居候付、加増申付候様も難致候付、今来年物馴之為、宜寿次江奉公申付候筋致相談、廿二日と宜寿次江差遣候処、何様相考候哉、追付罷帰、是非共此方ニ而兄一所ニ奉公申付

度由、涙を流頻ニ申出候付、色々申聞候へ共承引無之、親之方江差帰候様ニも難致、今日吉日ニ而私自物と飯料相渡、奉公申付候事、

一喜久里里之子、渡嘉敷子召寄、具志堅にや・三ら兩人此方僅之白物ニ而飯料相渡相統候哉与致相談候処、何そ不足是有之間敷由申出候付、本文之通、

一十七日、諸山親雲上次男松金五歳成者罷出候付、左之通相讓候、一家鳩式羽 私と 一和扇子一本 一揚木差一 親方と

同日、平らノ根孫かな・片ノ花宮城ノ孫松、今日識名御殿江御用有之、豊本にや江髪結相頼罷出候付、召寄和扇子一本ツ、くり候、

一同日上原按司御次男川卸ニ付、祝候而昆布一折差遣候事、

但、晩料理□有之候、

一廿三日、今帰仁王子御乗船、大和船十艘致出帆候事、

一廿四日、次男具志堅にや事、此方奉公相願□而、十七日罷登居候処、いまた幼少ニ而物馴も無之故、定式人数ニ難召加、且奉公人多人数罷居候付、加増申付候様も難致候付、今来年物馴之為、宜寿次江奉公申付候筋致相談、廿二日と宜寿次江差遣候処、何様相考候哉、追付罷帰、是非共此方ニ而兄一所ニ奉公申付

度由、涙を流頻ニ申出候付、色々申聞候へ共承引無之、親之方江差帰候様ニも難致、今日吉日ニ而私自物と飯料相渡、奉公申付候事、

一喜久里里之子、渡嘉敷子召寄、具志堅にや・三ら兩人此方僅之白物ニ而飯料相渡相統候哉与致相談候処、何そ不足是有之間敷由申出候付、本文之通、

一 利内証物四千貫文、庫理方江相預ケ割之
 利金あつたふ存世初ノ古信りもんと
 取附とれと、然も、此方庫理方江相預ケ
 右を、此方庫理方江相預ケ、保五候事、
 相談いたし候事、
 一 廿七日、鳩喰大鼠取候事、
 但、此程段々妨方いたし候処、其詮無之、大鳩小鳩共
 取交十二三程喰殺、込入候処、今日右通取得候事、
 八月中
 一 二日、上原按司御室江乳出候薬り、猪之あふら一朱具、諸白一瓶差遣
 候事、
 但、此方之使之者江玉子十五到来、
 一 四日、伊江按司御伯祖母之、惣慶里之子親雲上御使を以
 被仰聞候者、国頭間切奥間大親御元祖所之儀、

一 利内証物四千貫文、庫理方江相預ケ割之
 利金あつたふ存世初ノ古信りもんと
 取附とれと、然も、此方庫理方江相預ケ
 右を、此方庫理方江相預ケ、保五候事、
 相談いたし候事、
 一 廿七日、鳩喰大鼠取候事、
 但、此程段々妨方いたし候処、其詮無之、大鳩小鳩共
 取交十二三程喰殺、込入候処、今日右通取得候事、
 八月中
 一 二日、上原按司御室江乳出候薬り、猪之あふら一朱具、諸白一瓶差遣
 候事、
 但、此方之使之者江玉子十五到来、
 一 四日、伊江按司御伯祖母之、惣慶里之子親雲上御使を以
 被仰聞候者、国頭間切奥間大親御元祖所之儀、

先年者一門中御祭祀無御座候処、去酉年御相談
 之趣有之、一門中真志喜親雲上・森田筑登之・石川筑登之其外
 女共兩人差遣、始而御祭祀仕、尤遠方之事候故、毎年
 直乘難仕候付、御墓所江も御案内を以御土并
 御水取来、謝名村何与申所江御土御預ケ、又同所
 平松尾与申所井川江御水御預ケ、毎年八月
 一門中名代差遣、国頭間切江向直御祭祀仕例ニ而
 候処、年々於謝名向直御祭祀仕迄ニ而ハ、尊恭不足
 之筋ニ而、一門中為筋ニも如何敷候間、当月名代差遣、
 以後者七年廻ニ右通一門中名代差遣御祭祀仕候
 例ニ仕度、被思召候、此方江も得与相談を以御返答可仕由
 被仰聞候付、宜寿次親方・仲村親方江も相談之上
 思召之程御尤之御事、愈御同意ニ奉存候由、御返詞
 申上候事、

一伊江按司御懷御仕合ニ付而者、当分御四十九日
 内ニ而候へ共、神仏二者服忌之沙汰無之付、不苦
 被思召候間、弥当月内ニ差遣可然与被思召候由、
 一弥いづれも於御同意ニ者、御供物彼是調方ニ而、
 奥平方ニ被仰付由、

一鳥小堀村石川筑登之親雲上も、先年々七年廻ニ
 国頭江直參仕例ニ而候処、当年七年廻
 御期ニ当、差越申由候間、愈一同ニ而罷越、諸事

石川相談を以相勤候様被仰付由、

一 惣慶里之子親雲上申出候者、一門中名代ハ自分差越候様被仰聞候処、老体之者遠方步行難叶

候間、次男かな江被仰付度由申出置候由

承候付、此節之儀於彼所ニ古跡旁、所之者江も

相尋、委細日記不致候而不叶事候間、迎も其方

可罷越候、尤中途人馬賃錢等者、一門中差出

申答候間、其心得可仕由申達候事、

一 御神信仰、謝名内間先樋川参拝之儀、

委細書留無之候付、間違失念之儀共出来申答

二而、委く日記相仕立置可申由、此方二才共江申付置

候処、事あらく有之候間、仲村里之子親雲上二而別さつ二

日記相仕立、委く書留仕置可申由申付置候間、仲村

相合其方兩人二而、疑之所者伊江按司御伯祖母江も

申上、委く日記可仕由、申達候事、

一 此節より七年廻三國頭江一門中名代差遣、

御祭祀仕候付、以後者毎年八月謝名二而之御祭祀ハ

差止、毎年八月十一日ニ先樋川江名代差遣、國頭江

向御祭祀仕候筋ニ、御相談も相濟候事、

一六日、右御吉祭ニ付、一門中名代惣慶里之子親雲上、國頭

間切江出立いたし候事、

但、石川筑登之親雲上自分参詣ニ罷越候付、致同道候事、

石川相談を以相勤候様被仰付由、惣慶里之子親雲上申出候者、一門中名代ハ自分差越候様被仰聞候処、老体之者遠方步行難叶候間、次男かな江被仰付度由申出置候由承候付、此節之儀於彼所ニ古跡旁、所之者江も相尋、委細日記不致候而不叶事候間、迎も其方可罷越候、尤中途人馬賃錢等者、一門中差出申答候間、其心得可仕由申達候事、御神信仰、謝名内間先樋川参拝之儀、委細書留無之候付、間違失念之儀共出来申答二而、委く日記相仕立置可申由、此方二才共江申付置候処、事あらく有之候間、仲村里之子親雲上二而別さつ二日記相仕立、委く書留仕置可申由申付置候間、仲村相合其方兩人二而、疑之所者伊江按司御伯祖母江も申上、委く日記可仕由、申達候事、此節より七年廻三國頭江一門中名代差遣、御祭祀仕候付、以後者毎年八月謝名二而之御祭祀ハ差止、毎年八月十一日ニ先樋川江名代差遣、國頭江向御祭祀仕候筋ニ、御相談も相濟候事、一六日、右御吉祭ニ付、一門中名代惣慶里之子親雲上、國頭間切江出立いたし候事、但、石川筑登之親雲上自分参詣ニ罷越候付、致同道候事、

一 八月廿一日、朝嘉陽里主祖母御死去ニ付、私々錢百貫文、
 俸米壹俵差遣候事、
 一 廿四日、たら金城台所ノ前はめ石させ候付、左之通り候、
 一金毛たはこ入一ツ 一刻多葉粉入一ツ
 一 廿一日、たら金城台所ノ前はめ石させ候付、左之通り候、
 一 委細之儀者、御神御信仰日記ニ相記候、
 一 十四日、物慶里之子親雲上右勤相濟罷歸、首尾申出候事、
 一 同日未明、御仏壇之後江格護仕置候燈灯蠟火
 消後相残候哉、燈灯火燃出、さうとふニ及候処、人数
 相集首尾能消候事、
 一 十三日、孫三郎事別而息災之生付ニ而、何れも喜悅
 存候処、酉時分与風鳴候而、何歟病氣之様子ニ相見得
 一 廿一日、たら金城台所ノ前はめ石させ候付、左之通り候、
 一金毛たはこ入一ツ 一刻多葉粉入一ツ
 一 廿四日、朝嘉陽里主祖母御死去ニ付、私々錢百貫文、
 俸米壹俵差遣候事、
 一 廿一日、たら金城台所ノ前はめ石させ候付、左之通り候、
 一 委細之儀者、御神御信仰日記ニ相記候、
 一 十四日、物慶里之子親雲上右勤相濟罷歸、首尾申出候事、
 一 同日未明、御仏壇之後江格護仕置候燈灯蠟火
 消後相残候哉、燈灯火燃出、さうとふニ及候処、人数
 相集首尾能消候事、
 一 十三日、孫三郎事別而息災之生付ニ而、何れも喜悅
 存候処、酉時分与風鳴候而、何歟病氣之様子ニ相見得

- 一 十四日、物慶里之子親雲上右勤相濟罷歸、首尾申出候事、
- 一 委細之儀者、御神御信仰日記ニ相記候、
- 一 廿一日、たら金城台所ノ前はめ石させ候付、左之通り候、
- 一 一金毛たはこ入一ツ 一刻多葉粉入一ツ
- 一 廿四日、朝嘉陽里主祖母御死去ニ付、私々錢百貫文、
俸米壹俵差遣候事、
- 九月中
- 一 六日、夜前嘉陽里主内儀誕生ニ付、祝儀申達手くすり杯とノ錢貳拾貫文
差遣候事、
- 一 七日、例之通 弁財天堂江親方参拝いたし、
参錢差上候事、
- 但、私より三貫五拾文、親方々七百貫文差上候事、
- 一 同日未明、御仏壇之後江格護仕置候燈灯蠟火
消後相残候哉、燈灯火燃出、さうとふニ及候処、人数
相集首尾能消候事、
- 一 十三日、孫三郎事別而息災之生付ニ而、何れも喜悅
存候処、酉時分与風鳴候而、何歟病氣之様子ニ相見得

以之入時分腹之痛候候、返魂丹
 紫金錠杯相用候へ共、快無之粟国子相招、煎藥
 相用候処、座之障強、抱龍丸共相用候へ共、其詮無之、
 夜之七ツ時分夭亡いたし、残念之至歎入候、
 一十二日、今帰仁王子御乗船破損之段、伊平屋島へ飛船
 到来、

王子 糸数親方 義元里之子親雲上 浦添里之子
 佐渡山里之子 小波津里之子親雲上 手登根里之子 志喜真子
 義元里之子親雲上内 豊村親雲上内
 知念にや 比嘉にや
 右之外九拾人、余者生揚候由、

一廿四日、垣花親雲上使之由ニ而奥原筑登之親雲上罷出、承候者
 王子御不幸ニ付而者忌請候儀何様有之可然哉、服制
 見合候処、曆々方之奉公人、其檀那之為ニ者廿日与相見得候、
 家来分之檀那之事候へ者、服制之通忌可請候へ共、旅向之
 檀那之事候へ者、訳も相替可申哉、いづれも致相談候処、見立
 交々有之難相決候、何様有之可然哉得差図候由承、相考
 候処、旅中之檀那且公事を被召付候役々之事候得者、
 家来錢之檀那与者格別候へ者、廿日之忌受候而者相応
 不仕苦与存候、自然見立交々へ者、喜久里里之子登
 城、親方江右之趣相達、相談を以て御座江得御差図候共
 取計可申由、申含差遣候事、
 一右之趣、親方江相達候付、服制見合中間中

一 舟將り候に、舟上江州筑登之親雲上肝煎を以基はん
 相作候処、いまた相開不申、且泉水少々作直景色も
 宜相成候付、相中衆十五人其外評定所主取・帳主取・
 御物座帳当・給地御用意中取相招致参会候事、
 一 昼間雪飯小平相付、晩二汁一菜之料理御馳走
 いたし候事、
 但、手引者、伊江島より羊取寄料理候而差出
 候事

一 碁はん三面出、困碁被致候事、
 一 十三日、去午之小唐船・去戌之大唐船、此程行衛不知、
 最早唐日本ニも不罷居、破損ニ相決候段仰渡為有之
 由、
 一 廿五日、次男渡慶次夫婦洗骨いたし候事、
 十一月 中

一 舟將り候に、舟上江州筑登之親雲上肝煎を以基はん
 相作候処、いまた相開不申、且泉水少々作直景色も
 宜相成候付、相中衆十五人其外評定所主取・帳主取・
 御物座帳当・給地御用意中取相招致参会候事、
 一 昼間雪飯小平相付、晩二汁一菜之料理御馳走
 いたし候事、
 但、手引者、伊江島より羊取寄料理候而差出
 候事

一 舟將り候に、舟上江州筑登之親雲上肝煎を以基はん
 相作候処、いまた相開不申、且泉水少々作直景色も
 宜相成候付、相中衆十五人其外評定所主取・帳主取・
 御物座帳当・給地御用意中取相招致参会候事、
 一 昼間雪飯小平相付、晩二汁一菜之料理御馳走
 いたし候事、
 但、手引者、伊江島より羊取寄料理候而差出
 候事

一 舟將り候に、舟上江州筑登之親雲上肝煎を以基はん
 相作候処、いまた相開不申、且泉水少々作直景色も
 宜相成候付、相中衆十五人其外評定所主取・帳主取・
 御物座帳当・給地御用意中取相招致参会候事、
 一 昼間雪飯小平相付、晩二汁一菜之料理御馳走
 いたし候事、
 但、手引者、伊江島より羊取寄料理候而差出
 候事

- 一 八日、悴事、帳主取上江洲筑登之親雲上肝煎を以基はん相作候処、いまた相開不申、且泉水少々作直景色も宜相成候付、相中衆十五人其外評定所主取・帳主取・御物座帳当・給地御用意中取相招致参会候事、
- 一 昼間雪飯小平相付、晩二汁一菜之料理御馳走いたし候事、
- 但、手引者、伊江島より羊取寄料理候而差出候事
- 一 碁はん三面出、困碁被致候事、
- 一 十三日、去午之小唐船・去戌之大唐船、此程行衛不知、最早唐日本ニも不罷居、破損ニ相決候段仰渡為有之由、
- 一 廿五日、次男渡慶次夫婦洗骨いたし候事、
- 十一月 中
- 一 四日、吉日ニ而山戸宜寿次江始而とまりさせ候事、
- 一 昼間者、親方より料理素めん馳走有之候事、
- 一 晩者、妹むたじや手引一ツ之料理馳走有之候事、
- 一 私る昆布一折、親方る素めん五斤差遣候事、
- 一 室さとうふ十、真鶴も同十右同、
- 一 廿三日之夜五ツ過時分、真鶴住居所江盗人入、左之通衣裳被盜取、段々穿鑿いたし候へ共いまた相知不申由、

一 おら表島袖わた入壹枚

一 黒さから木棉とうふく壹着

一 木棉かすり単り衣裳壹枚

一 同大かすりおり袖同壹枚

一 同表水色地形付、おら黒わた入壹枚

一 同碁はん島単り衣裳壹枚

十二月 中

一 十一日、辺土名親方々、明日紫冠御拝二付御肴献上

仕候御残として、肴八斤ほど到来二付、玉子五十

差遣候事、

一 十二日、真志喜親雲上御祖父・御父三十三年回忌

弔二付、一門中より例之通饅頭式百宛、私々かん

一 一くしき差遣候事、

一 十三日、前川里之子親雲上故妻、十三年回忌相弔候事、

但、委細之儀別さつ二相見得候付略ス、

一 同時入高左之通、

一 一米三斗五升五合五勺先

一 一錢三百四拾九貫三百文

此下三行者、前川筑登之親雲上を被差上候、

一 冬瓜拾壹斤

一 地漬大根式本

一 薪木五束

十一月 中

一 十一月、邊土名親方々、明日紫冠御拝二付御肴献上

仕候御残として、肴八斤ほど到来二付、玉子五十

差遣候事、

一 十一月、前川里之子親雲上故妻、十三年回忌相弔候事、

但、委細之儀別さつ二相見得候付略ス、

一 同時入高左之通、

一 一米三斗五升五合五勺先

一 一錢三百四拾九貫三百文

此下三行者、前川筑登之親雲上を被差上候、

一 冬瓜拾壹斤

一 地漬大根式本

一 薪木五束

十一月 中

一 十一月、邊土名親方々、明日紫冠御拝二付御肴献上

仕候御残として、肴八斤ほど到来二付、玉子五十

差遣候事、

一十九日、宜寿次子犬之子もらへ、飼立候事

一十九日、勝連按司の勝連子御使を以被仰聞候者、先日私申上候白魚膏之儀、森浜筑登之親雲上江御相談被成候処、按司御腫物二者相応不仕由被申、此程入念療治被致候処、長々同篇ニ而何ぞ引分も無之候付、此内内々比屋根里之子親雲上御招御相談被成候処、右膏藥別而相応仕候由被申候間、先一節右かうやく御用御試被成度候間、少々差上度由被仰聞候付、此膏藥之儀此程段々相試候処、功能奇妙有之候間、一往御試被成可然与、此前存含候間、愈御試可被成由申上、壺共持し差上候事、

一十九日、伊波親雲上相招申談候者、前川親雲上事長々御奉公も不相勤引籠居候付、此間折々相勤候へ共出立不申、込り入候処、上間親雲上事此程三十年余引籠居候処、此節御奉公願出、奉行役被仰付、殊勝之至存候、前川も何そ之御奉公も不相勤、此俣ニ而相終候ハ、子孫衰微之基、如何之儀ニ候間、上間手本と以後者随分御奉公之心懸無之候而不叶儀与存候間、随分相談可被致候、私江も此内相招候而相勤可申存念候へ共、先御方ニ而相談被致何分被申聞度由申談候事、同日、今朝伊江按司をなちやら御女子御平産、御母子共御平安之由、御殿御知せ御座候事、

大山親方御宅三而御誕生之由、
 右通御知せ御座候付、知花子を以上下屋敷
 物中三而御祝儀申上候事、
 一廿五日、御母御安否御尋申上、玉子五十甲
 差上候事、
 一廿五日、御母御安否御尋申上、玉子五十甲
 差上候事、

一 大山親方御宅三而御誕生之由、
 一 右通御知せ御座候付、知花子を以上下屋敷
 物中三而御祝儀申上候事、
 一 廿五日、御母御安否御尋申上、玉子五十甲
 差上候事、